

榆 苑

岡田大岬(昭和45年卒)

北大法学部同窓会報

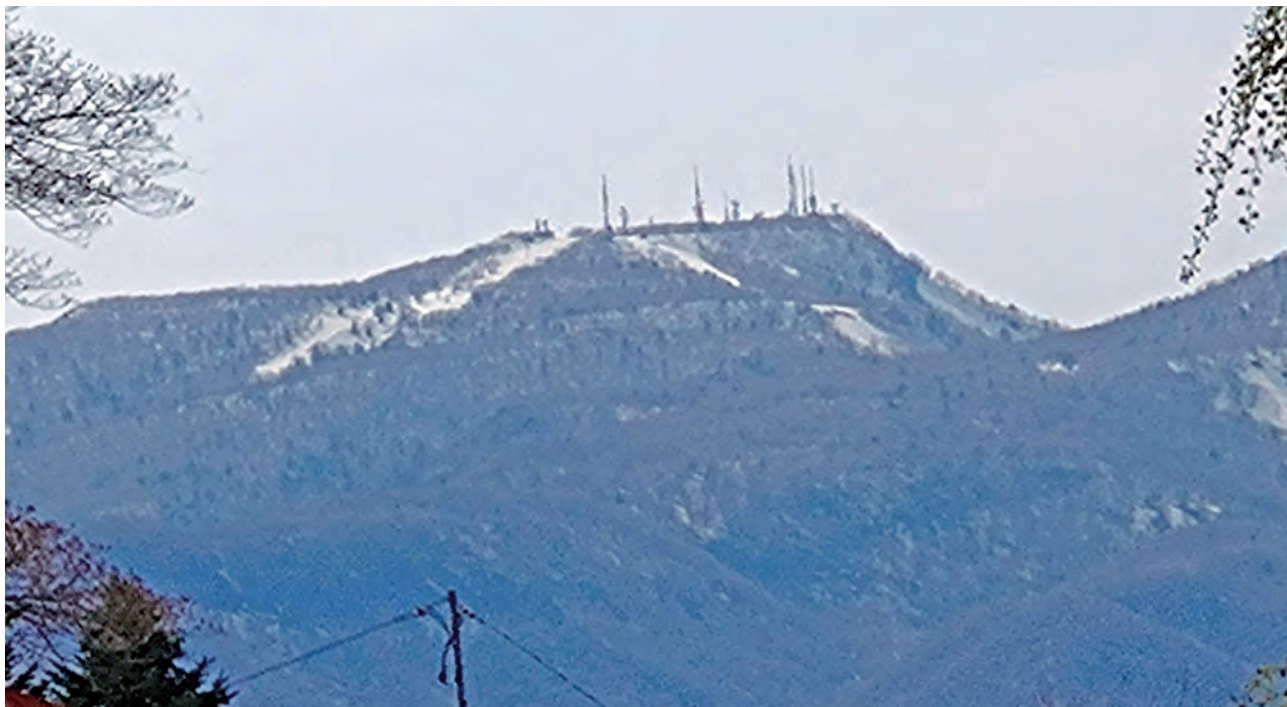
第41号 2025年
7月22日発行



北海道大学 法学部
School of Law
Hokkaido University

♪手稲の嶺♪

2025年4月28日 ポプラ並木の近くから



延齡草

法学部章のリデザインについて

尾崎 一郎

近時、大学を取り巻く環境は大きく変化しています。特に国内外の大学、研究機関、企業、初等中等教育機関等との連携は、かつてない頻度と規模で行われるようになりました。その際に各組織が存在をアピールするうってつけの手段がロゴマークです。実は我が北大法学部では1963年に創立10周年を記念して法学部章が作られていました。公募により採用されたのは深瀬忠一助教授(当時)のデザインです。逞しい幹から繁茂する榆の若葉が「法」の字の周りを取り囲むという若々しい意匠は、絵画に造詣の深かった深瀬先生ならではの傑作です。いつしか忘れられていたこの法学部章を現代的なものにリデザインし復活させることにしました。

変化を加え多様な用途に用いるためには深瀬先生の御遺族の承諾を頂く必要がありました。連絡先を探す過程で、世界銀行のエコノミストである長女えみ子さんの英語論文に辿り着きました。えみ子さんから届いた返信の一節です。「父は若い頃、学者になるか絵描きになるかで悩んだと聞いておりましたが、このような形で両方の希望が叶い、未来へとつながっていくことを知り、天国で喜んでいいと思います。父は北大を心から愛し、自分で描いた法学部のペン画を居間にずっと飾っておりました。退官後も名誉教授として北大とつながりを持っておかげで、88歳で亡くなるまで研究を続けることができ、深く感謝しております。」

草創期の北大法学部を支えた若き学者の知的かつ美的な情熱を受け継ぎ、時代の変化に応じて進化し続ける北大法学部の精神を体現する新デザインは、私たちが未来の北大法学部のメンバーへと送り届ける榆の葉の手紙でもあります。末永く愛されることを期待しています。(北大教授) ※新旧デザインは32頁掲載

ご寄附のお願い

150th
HOKKAIDO UNIVERSITY

北海道大学
創基150周年記念募金
(北大フロンティア基金)

2026年、北海道大学は創基150周年を迎えます。

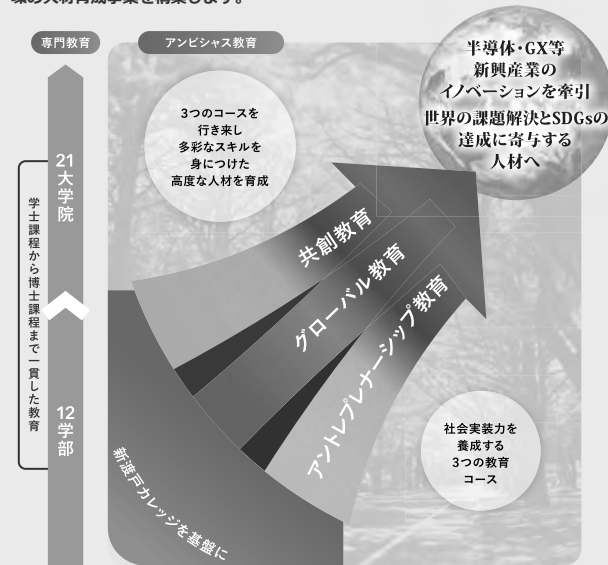
多様な人材が持続的に新たな価値を生むキャンパスへの転換に向けた「人と人を、時を、緑を、夢を、実を、結ぶ」をキーコンセプトとする古河講堂の改修・利活用事業や、未来社会を創造する人材育成事業「Innovation Front Runner」など、次の150年を見据えた記念事業のため、2023～2026年度の4年間、北大フロンティア基金は「創基150周年記念募金」として、皆様からのご寄附を募集しております。

Extension 年間1.5億円×10年▶総事業費15億円 [支援規模は毎年600名を想定]

1. 人材育成事業「イノベーション・フロントランナー」の育成

「学びを、キャンパスから外へ、地域社会や世界のフィールドへ広げる」をコンセプトに、もっと学びたい、研究したい、視野を広げたいと願う学生を支援します。

北海道のフィールドを活用し、自身の専門知識と社会の課題を結びつける共創教育や、新渡戸カレッジを中心としたグローバル教育、そして早い時期からのアントレプレナーシップ教育などを通じ、学生の探究意欲や進学意欲を一層引き出すために、学部・大学院一環の人材育成事業を構築します。



Extension 総事業費10億円

2. 古河講堂の改修・利活用事業

本学は、1906年（明治39）年に古河家から施設整備費の寄附を受け、教育設備が充実したことから、前身の札幌農学校から大学に昇格した歴史があります。

本事業では寄贈当時の古河講堂を復元し、SDGsの達成やDEI推進に取り組む北海道大学を地域に伝える「場」として利活用します。



古河講堂の現状(建物全体に広がる腐朽とひび割れ)

あたらしき いにしよ
“新”と“古”の融合
・外観の継承
・内装意匠の継承



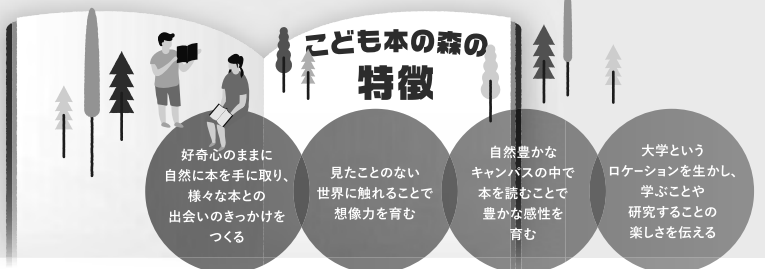
復元後の外観イメージ

Extension 総事業費5億円

3. 「こども本の森」事業

世界的建築家の安藤忠雄氏が自治体へ寄贈されている「こども本の森」を、本学構内に建築すると提案をいただきました。安藤氏の「『ボーイズ・ビー・アンビシャス』という精神がある北海道大学はシンボリックな場所。日本だけではなく、世界に飛び立つこどもたちが一人でも出てくれば」との想いを受け、2026（令和8）年夏を目指し「こども本の森」を開設します。

運営にあたっては札幌市と本学が協力し、こどもたちの心の豊かさ、想像力、好奇心を育み、成長の糧となる場として機能できるよう取り組みます。



寄附方法

北大フロンティア基金ウェブサイトの「寄附をする」から、ご寄附方法（クレジットカード決済、郵便振替・銀行振込、コンビニ決済、PaPay決済）を選択のうえ、お手続きください。



URL ▶ <https://www.hokudai.ac.jp/fund/>



個人の方▶



法人・団体の方▶



クレジットカード決済により、継続寄附（毎月・年2回・年1回いずれかの引落し）をご利用いただけます。また、お申込み時に会員登録いただくと登録内容の修正・解約などがインターネットで随時行えます。

お問い合わせ先

北海道大学広報課卒業生・基金室

〒060-0809 札幌市北区北9条西6丁目 北海道大学百年記念会館内
TEL 011-706-2017 FAX 011-706-2010
E-mail kikin@jimu.hokudai.ac.jp

北海道大学 法学部同窓会の皆様へ

日頃より、北海道大学への御理解、御協力、そして御支援を賜かり深く、御礼申し上げます。

今回、法学部同窓会の会報「楡苑」の発行、送付に合わせて、

北海道大学創基150周年事業の御案内をさせて頂いたばかりになりました。

改めて、関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

今回、私達は、次150年の北海道、日本、世界に貢献する「人財育成」を主眼に置き、150周年事業を企画し、進めております。

言うまでもなく、法学部をはじめとして北海道大学は、創基以来、優れた人財を輩出して参りました。特に法学部は、日本、北海道の政治、自治、経済の領域、そして法曹界において、指導的な人財を育成して参りました。

私も、この職に就いて以来、多くの方々と出会い、かありながら、実に多くの機会に、法学部出身者の皆様に会ってきました。その御活躍に感服しております。

北海道大学は、本当に世に誇りができる伝統と理念を持つ「比類なき大学」

であると確信しております。皆様には、御心算を付けておられるか。

この150年の価値を私達、私達自身の道を経て、国際卓越研究大学や世界に誇れる評価の高さを目指しております。

どうか、御指導、御支援の程、よろしくお願い申し上げます。

末筆ではありますが、皆様の益々の御健勝、御活躍を祈念申し上げます。

令和7年7月吉日

第20代

北海道大学総長

寶金 清博 拝

楡苑第四二号の 発行に当たって

北大法学部同窓会長

藤田 美津夫



昨年九月に開催された法学部同窓会定時総会において、佐々木亮子前会長の後任として、会長に選任されました。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、昭和二六年に釧路市で生まれ、昭和四五年（一九七〇年）に北海道大学に入学しました。法学部に移行した後には、民法の藪重夫先生のゼミと民事訴訟法の小山昇先生のゼミに所属しました。司法試験の受験のため二年間余計に在学し、昭和五一年（一九七六年）に法学部を卒業（第二七期）しています。卒業した年の四月から司法修習生となり、旧制度の下で二年間の司法修習を受け、昭和五三年四月に札幌弁護士会に入会して弁護士登録をし、先輩の

事務所で四年間研鑽した後、昭和五七年に札幌市内で法律事務所を開業し、現在に至っています。

私が北海道大学に入学した昭和四五年は、各地の大学紛争がおおむね終息に向かっていた時期でしたが、私が入学した年も、キャンパスの随所に学生が作成した立て看板が掲げられ、ヘルメット姿の学生らが示威行進をしたり、拡声器で演説をしたりする姿がありました。教養部の建物の入口がバリケードによって封鎖され、授業ができなくなったこともありました。

それから半世紀が過ぎ、大学の中には明るく平和な雰囲気が溢れており、平成となった後に入学し、卒業された皆さまには、私が入学した当時の殺伐とした状況などは想像もつかないことと思います。

平成一二年（二〇〇〇年）の夏に、一年生の時に配属となった教養部のクラスと同級生一八人と当時のクラス担任の先生が参加して、「入学三〇周年のクラス会」を開催したことがありました。当時クラスのまとめ役であり、私の大切な友人でもあるT君が中心となって企画してくれたものでした。

私は、卒業後、司法修習を経て実務に就いてからは、自身の業務と弁護士会

の会務に追われる毎日で、同窓会のことについて考える余裕もなかったのですが、この三〇周年のクラス会で、クラスメートからそれぞれの卒業後の歩みや近況についての報告を聞き、これをクラスメートたちの若き日の姿と重ね合わせ、深い感動を覚えました。参加者の全てが法学部卒業生ということではありませんが、この集まりを切っ掛けとして、北大卒業生としての絆の大切さを痛感することになりました。

法学部同窓会のホームページにも書かせていただきましたが、北大法学部の累計卒業生数は、一万六千人を超えるとのことです。多くの卒業生が道内・国内はもとより、海外でも幅広く活動しておられることを思うと、大変心強いものを感じます。いま、我が国は、少子・高齢化と人口減少が進み、現在の停滞から、今後は衰退に向かうとの指摘もされ、政治・経済・社会の様々な分野で乗り越えなければならぬ困難に直面しています。このような時、北大法学部同窓会の会員としての絆を大切に、互いに協力し合うことにより、諸課題の解決に取り組んでいくことができれば、嬉しい限りです。

法学部同窓会の発展と会員の皆さまの親睦を深めるため微力を尽くしたい

と思いますので、皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

弁護士法人小寺・松田法律事務所

弁護士 小寺 正史
(昭和50卒26期)

〒060-0801 札幌市中央区大通西十丁目 南大通ビル六階
電話 (011) 281-1501
FAX (011) 281-1506

弁護士法人向井・中島法律事務所

弁護士 向井 諭
(昭和50卒26期)

〒060-0801 札幌市中央区大通西十五丁目 ラスクム十五ビル六階
電話 (011) 642-1921
FAX (011) 642-1873

ご挨拶

北大法学研究科長・法学部長

佐々木 雅寿



令和6年12月15日付で法学研究科長・法学部長を拝命した佐々木雅寿です。どうぞよろしく願っています。はじめに簡単な自己紹介をさせていただきます。

私は、昭和38年定山溪で生まれ、千歳で育ちました。昭和57年4月に北海道大学文Ⅲ系へ入学し、昭和61年3月に法学部を卒業しました。入学以来、北大ESS（英語研究会）に所属し、ディベート、ディスカッション、スピーチ等の活動に没頭していました。卒業後は、北大大学院法学研究科の修士課程と博士課程に進学し、中村睦男先生のご指導を受けて憲法学を勉強しました。平成元年4月に北大法学部助手に就任し、その後、大阪市立大学法学部助手、助教、教授を経て、平成19年10月に、北海道大学大学院法学研究科教授とし

て札幌に戻ってきました。平成16年以降、前任校でも北大でも、主に、法科大学院の憲法の授業を担当していたため、法学部では主にゼミを担当しています。ゼミでは、中村先生の指導方法やゼミの進め方を参考にしながら、学生との議論を楽しんでいます。

さて、大学全体、そして、法学研究科・法学部の近況について、少しマクロ的な視点から説明させていただきます。

北大は令和8年に創基150周年を迎えます。北大は、「フロンティア精神」「国際性の涵養」「全人教育」「実学の重視」という4つの基本理念を建学の精神として発展してきましたが、今後は、Sustainability（150年先の未来を守るために）、Innovation（世界の課題解決に向けて）、Diversity（多様性にひらかれた教育・研究の場）の3つのテーマを一体として推進することです。より明るい社会の実現を目指しています。そのために、北大は、卓越した世界的研究能力（Excellence）と地域に密着した課題解決のための社会への拡張力（Extension）を融合した大学を目指しています。法学研究科・法学部においても、4つの基本理念が確実に受け継がれてきましたが、今後は、新しい3つのテーマを

踏まえて、優れた教育・研究能力とその成果を用いて、地域の課題解決のために広く社会へリーチアウトすることも、法学研究科・法学部にとって重要な役割となります。

そのため、法学研究科・法学部においては、学生の多様性をより高め、歴史と比較という観点から見た法律学と政治学の基礎的な知識と考え方のみならず、その応用、他の学問分野との統合的な視点等も教授して、新しい社会課題の解決に寄与しうる人材を社会に送り出すことが重要な役割となります。それに加え、すでに社会で活躍している人達に対するリカレント教育をより充実することも必要となります。学生の多様性に関しては、近年、法学部入学者における女性の割合が上昇傾向にあります（令和3年度32・6％、令和4年度27・5％、令和5年度29・7％、令和6年度42・9％、令和7年度36・8％）。また、令和7年度の大学全体の入学者における道内勢の割合が30％を下回りましたが、法学部入学者における道内勢の割合は、ここ5年間でほぼ横ばいです（令和3年度39・6％、令和4年度39％、令和5年度38・9％、令和6年度38％、令和7年度37・8％）。リカレント教育の充実に関しては、社会人の博士課程への入学者を増加させるための入

試改革や修了要件の見直し等の検討と具体化が現在進行形で行われています。

次に、法学部生と同窓会との関係についてご紹介いたします。3月25日の学位記授与式（卒業式）の後、法学部同窓会賞の授賞式が行われました。今年も、成績が極めて優秀な2名の学生（2名とも女性）が個人として表彰され、また、曾野教授が指導するムートゼミが、国内外の模擬国際商事仲裁大会に毎年参加し、国内大会では優勝を含む入賞を続けていることで団体として表彰されました。授賞式に参加した学生は、いずれも目を輝かせて、未来の夢を語っていました。このような同窓会の活動は、法学部生のモチベーションを高め、法学部生と同窓会の強い絆を作り出すことに大いに役立っていると感じました。

これからも同窓会のみならず、温かいご支援を賜りたく、心よりお願い申し上げます。

弁護士法人
札幌英和法律事務所

弁護士 田中 敏滋
(昭和50卒26期)

〒060-0801 札幌市中央区大通西1丁目 半田ビル6階
電話 (011) 281-1441
FAX (011) 281-1442

座 談 会

(元北大公共政策大学院院長)宮脇淳先生を囲んで

2025年3月8日(土) 開催



【出席者】 (写真左から) 縄野 歩 (岸田法律事務所 弁護士)、伊関 洋 (札幌市まちづくり政策局都心まちづくり推進室都心まちづくり課長)、宮脇淳先生、高橋俊樹 (北海道新聞社編集局経済部次長)

【司 会】 山崎幹根 (北海道大学公共政策大学院院長・法学部教授)

【宮脇先生のご略歴】

1979年 参議院事務局入局
1989年 (株)日本総合研究所入社
1996年 北海道大学法学部教授に着任 (実務家教員)
1998年 (株)日本総合研究所に復職
1998年 北海道大学法学部教授として再着任

2005年 新設の北海道大学公共政策大学院の初代院長に就任
2013年 北海道大学法学研究科教授・公共政策大学院教授
2022年 北海道大学退官、同名誉教授
2022年 (株)日本政策総研理事長・取締役
2023年 (株)日本政策総研代表取締役社長

山崎 本日は、北大法学部同窓会報『楡苑』主催で、公共政策大学院名誉教授の宮脇淳先生を囲んで、先生とゆかりある卒業生の皆さんとの座談会です。私は山口二郎先生のもとで勉強していましたが、院生時代に宮脇先生が着任されました。宮脇先生の授業を受けたことはありませんが、研究会の発表等でお話を聞かせていただき、公共政策大学院でも一緒に授業をさせていただきました。公共政策大学院創設から20年となり、宮脇先生にはずっとご指導をいただいています。

最初に、皆さんから自己紹介をお願いします。

伊関 札幌市役所都心まちづくり推進室都心まちづくり課の伊関です。宮脇先生のゼミを受講した後、すぐに事務職として札幌市役所に入庁し、今年で27年になります。そのうち12年ほど都心まちづくり推進室で勤務しておりますが、この部署は技術職と事務職が混在、融合している組織で、様々な職種が連携しながら、札幌の都心をより良くしていくこうとしています。その点で私の経歴は事務職としては少し特殊だと思います。また、その他に企画課などの部署も経て現在に至っております。

縄野 弁護士の縄野です。私は伊関さんと同級生で、1998年3月に卒業し、北海道庁に入庁しました。振り出しは本庁保健福祉部で生活保護の業務を3年担当し、その後、檜山振興局の3年間で市町村行政に携わりました。その後、宮脇先生

と

にもご相談して東京の政策研究大学院大学で1年間学びました。本庁に戻って財政課と税務課を経て、都合9年間の道庁勤務後、北大法科大学院に入学し、司法試験に合格しました。弁護士生活も14年目に入り、道庁よりもセカンドキャリアの方が長くなりました。

高橋 北海道新聞の高橋です。今は経済部でデスクをしています。私はお二人の1年後輩で、1999年3月に卒業し、記者として今の会社に入りました。道庁を担当していた2006年に夕張市の財政問題が発覚し、その取材では宮脇先生にいろいろご指導、ご助言をいただきました。その後も先生には仕事でお世話になることが多く、2017年の「拓銀破綻20年」の連載企画でも相談させていただきました。私は卒業後の方がお世話になっています。

北大着任のきっかけと当時の思い出

山崎 宮脇先生は1996年に北大法学部に着任されましたが、その経緯を教えてください。

宮脇 日本総研に在籍していた時に山口先生から電話があり、昼食に誘われて、東京駅のステーションホテルで食事をしました。そのきっかけは著書『財政投融资の改革―公的金融肥大化の実態』です。この本を山口先生が読んでくださって、非常に面白かった、2年ほど実務家教員として北大に来ませんかと誘われました。

その前年に子どもが生まれていて、家内に相談すると「子育ては北海道がいい」となりスムーズに着任できました。

実務家教員は法学部の制度でしたが、早い時期から導入されていて、2年間の約束で日本総研から北大に転籍しました。2年後に日本総研に戻りましたが、6カ月後に改めて北大に着任しました。

当時の北大の政治学講座はパワーのある先生がたくさんいて、元気がありました。会議をやっても学生運動の延長線を感じました。私は少し下の世代なので「すごい」と思いながら拝見していました。学生もエネルギーが溢れていて、パンカラという言葉が適しているかわかりませんが、いろいろなことをやってみようという学生がいました。あれもやりたい、これもやりたいとチャレンジする姿に感銘を受けました。

着任して一番驚いたのは就職課がないことです。私は私学出身なので、国立と私立の違いを強く感じました。

着任後の住居も問題でした。実はそれまで一度も来道したことがなく、雪を知りません。庶務係長から琴似の公務員住宅を紹介されましたが、1階で暖房機を購入しなければいけないと言われて、民間の住宅を見つけました。庶務係長は4階に変更できないかなど一生懸命頑張ってくれたので、迷惑をかけてしまいました。週末はスパー巡りが楽しく、どうしてこんなものが売っているのかと、不思議なことばかりでした。

山崎 印象深い先生はいますか。

宮脇 着任時は大変な雪で、正門の辺りが真っ白でした。道の端を歩いて法学部の庶務に着くと、応接セットに遠藤乾先生が座っていました。海外から帰国した時だったようで、面と向かって挨拶をしました。山口先生の次に会ったのが遠藤先生で、次が新川敏光先生です。トイレで新川先生が寄ってきて「宮脇先生ですか、お酒を飲みましょう」と言われました。

一同（笑）

宮脇 そんな順番で先生方と挨拶をしました。とてもアットホームで、今の法学政治学資料センターでお酒を飲んだり、ご自宅にお邪魔したりしました。私は全く知らなかったのですが、自宅探しに奔走してくれたのが松浦正孝先生です。

一同 ええー！

宮脇 ススキノに近い東屯田通りのそばにあるマンションに入居しましたが、「少なくとも石山通よりも西に行った方がいい」などとアドバイスいただきました。いろいろな先生にお世話になりました。

山崎 シンクタンク時代は非常勤講師もされていたのですか。

宮脇 慶応大学経済学部に加藤寛先生と一緒に業務をしていたので、湘南藤沢キャンパスにはよく通いました。でも、北大に着任してみると、北大生は非常に真面目で、こんなに学生の気質が違うのかと驚きました。

山崎 実務家教員の皆さんからは講義の準備に苦労すると聞きます。

宮脇 私も最初は訳がわからない状況でした。教務係から「スケルトンを作ってください」というメールが届いて、わからないので山口先生に相談しました。授業というよりは講演の組み合わせという感じでしたが、当初は15のコマ数の重さを感じました。

慶応大学は60分授業なので、始まりと終わりを調整すれば小学校と変わりません。経営者志望の学生が多く、公務員志望はほとんどいなかったもので、政策についても経済政策や経営的な内容で、企業や時事ものを話題にしていれば何とかこなせてしまいます。

北大では15回の授業の途中で息切れしていました。上手な配分がわからず、90分の1コマに全てを入れ込もうとして、学生もよく理解できなかったと思います。エコノミストの講演と講義の違いです。時事ものであっても一定の理論性が必要ですが、実務家教員だから、そこは少し薄くても許してもらえらると思っていましたが、ある種の重みはずっと続きました。

激動の90年代後半を振り返って

山崎 宮脇先生が着任された90年代後半は激動の時代でした。

宮脇 80年代後半から、公的部門に対する切り込みが非常に厳しくなりました。その入り口が三公社です。三公社の改革の引き金は、1975年の国鉄のスト権ストで、あのしこりがずっと残って公社

への批判が尾を引いていました。ストは3日ぐらいで終わると思っていましたが、8日間も国鉄がストップして、民間企業は国鉄はもう不要だ、八王子からバスで輸送すると言い出し、国労が一気に地盤沈下して、それに三公社全体が引きずられました。小さなことが評価されるようになり、その延長線で西尾勝先生が関わった第一次地方分権改革の基盤ができれば、合併議論も出てきます。そこから、橋本行革につながって中央省庁再編となりました。省庁再編は実現しましたが、どれだけ構造が変わったのでしょうか。いろいろな議論がありますが、当時はとにかく数を減らす方向でした。厚生労働省や総務省のような組織ができ、ほとんどガバナンスが利かなくなつた部分もあります。その入り口はすべて財政です。財政赤字を解消する、財政の効率化を図るということでした。ちょうどその時に、先ほど話題になつた財投の本を書きました。

以前、私は参議院事務局に勤めていたので、分析の過程で財投は財政なのか、金融なのかという疑問が生じました。金融ならば返還しなければなりません、当時は何でも財投に投げ込んでいました。

よく言われるのが、一般会計や特別会計は客間だということです。そこは綺麗にしていますが、財投はいろいろな返還困難となる案件が投げ込まれます。そのパイプ役とされたのが当時の日本開発銀行でした。

大阪商船三井、クロネコヤマトなど、経済団体でした。その結果として効率化の視点が議論の中心になっていった背景があります。ただ、中央省庁の抵抗で、第一次分権改革の事務局は大変でした。

私は堀元知事とのつきあいが長く、当時、土幌高原道路や日高横断道路などの対応を覚えています。堀元知事は、単に事業を止めることを考えていたのではなく、道東自動車道の予算を確保するために日高横断道路を中止するなど、国土交通省と話をつけていました。それまでの補助金を返還しない対応もしつかり議論していました。今の補助金適正化法では事業が中止になると交付された補助金を返還しなければいけません。でも、北海道では補助金適正化法制定の前に、北海道政策評価条例を策定しています。政策効果を把握して必要性や効率性、有効性などの観点から自らを評価して、その結果を政策に反映させる意思決定をすれば、補助金の返還を求められないというルールを作っています。その前段が「時のアセスメント」です。そうした取り組みが原点になり、国も政策評価法を導入することになりました。

当時は道庁が国の制度を引っ張っていました。国はとにかく絞るという行革を進めていましたが、道庁は次のステップを考えながら、今、何を止めて何をやるべきかを判断をしていました。そのころは、総務省も道庁にはトップクラスの職員を派遣すると言っていました。道庁の考え

方を学んで、本省に戻ってきてもらおうという戦略でした。

私は国も道庁も関わっていたので、なじめを感じる時代でもありました。

山崎 道庁とのお付き合いでは、政策評価の制度設計に関わったと。



宮脇 はい。単なる報告書に留めず、条例化した自治体はなかったと思います。ややもすると政策評価は費用対効果を算出して、報告書ができて終わりということが多いのですが、道庁は戦略を持って政策評価を導入していました。

市町村で思い出深いのは白老町です。縄野 見野全町長時代ですね。

宮脇 そうです。当時の白老町は、基礎自治体としてどうあるべきかを常に考えていて、町民の皆さんも一生懸命でした。白老町は横に長い地形なので、連携をするにしても地政学的に難しい。でも、それを

乗り越えて優位性を創り出していく視点を持っていました。政策評価も必要性和満足度を横軸と縦軸で組み合わせ、町民に意見を聞いてしました。満足度が高くても必要性が低い事業もあり、それを可視化するようにしていました。町長を支えていた企画課の岩城達巳さんの存在も大きかった。見野町長引退後は岩城さんも身を引かれましたが、トップをサポートする人の存在や引退後の継続性、連携の環境をつくれるかどうかは重要です。トップをサポートする職員を見つけて出すとともに、連携する意欲を持ってもらえるかどうか自治体運営の一つの要素だと感じます。

縄野 ニセコ町も注目されていました。

宮脇 ニセコ町もよく通いました。一面しか見えないので、言い切れませんが、地域の浸透性が続かなかった印象があります。ただ、当時はいろいろなことにチャレンジしていて、新しい仕組みを試していく気概がありました。当時の逢坂誠二町長は、ニセコとしてのプライド意識を非常に高く持っていたと思います。

山崎 皆さんはちょうど学生でしたが、拓銀の経営破綻など、当時の政治経済社会状況をどのように見ていましたか。

縄野 私は公務員志望でしたが、民間の就職状況、経済状況は悪いと感じていました。公務員試験の倍率も高く、厳しさを痛感しながら試験勉強をしていました。民間志望の友人の就職も大変で、明るい思いではなく、暗鬱としたイメージです。



ただ、公務員になってからは土曜講座など、みんなで地方自治を盛り上げていくという気風がありました。一方で、当時の道庁は不正経理問題が尾を引いていて、入庁してからはずっと給与の一部削減でした。宮脇先生が指摘したように全国をリードする改革をしている一方で、職員の士気は下がっていたように思います。何とも言えない雰囲気は漂っていました。

伊関 思い返してみますと、それほど深く考えていなかったというのが正直なところです。私も公務員志望でしたが、大学を選ぶ前に『北大法学部を読む』という本を読んでいた。また、当時政権交代が起きており、山口先生がかなりメディアに出ていらつしたこともあり、「行政学や政治学にも強い北大法学部」という印象がありました。山口先生の講義や新川先生のゼミでご指導をいただきながら、徐々に行政学や政治学の知識を深め、

公務員を目指す気持ちがより明確になっていきました。確か公務員志望者の集まりとして「霞が関クラブ」のような受験サークルもありましたね。

縄野 我々の1期上、初代宮脇ゼミの先輩たちが創設したと記憶しています。

伊関 その諸先輩方が今も札幌市役所にいらして、現在もお付き合いがあります。私の同級生の中には山一證券に採用が決まったものの、1997年11月に自主廃業が決まり、その後改めて就職活動をした人もいました。同年に経営破綻した拓銀の影響もあり、当時は本当に大変で「この先どうなってしまうのか」という不安がありました。ただ一方で、行政への批判はありつつも、これから新しい方向に向かい変わっていくとするエネルギーも感じられ、その一翼を担っていきたいという思いで入庁した記憶があります。

山崎 高橋さんは1年下なので、さらに拓銀の深刻度が増していたと思います。**高橋** 学生だったので当時の経済状況を自分の事として考えることは出来ていませんでした。行財政改革もテレビや新聞、本の中の世界で、面白さは感じていましたが、表面的なことしか見えていませんでした。むしろ社会人になってから、大きく動いた90年代の行政や経済に興味を湧き、あの時代に記者をしていたら、と思うことがあります。

私の場合は、これから就職活動と思っていた時に拓銀が破綻したという状況で

した。就職で苦労した同期も多く、公務員試験も厳しかったので、大学に1年長く在籍する人がたくさんいました。

宮脇 日本総研時代、ある人から拓銀は普通預金の金利が6%なので預金しないかと薦められました。でも、シンクタンク仲間の間では、いつ倒れるか、いつ資金がショートするか、ウォッチしていました。ところが、札幌に来てみるとみんな危機感がありませんでした。

高橋 北海道では、拓銀が潰れるはずがないという空気でした。

宮脇 その違いに戸惑いました。拓銀に對して、大きな信頼感があるのです。百貨店の丸井今井も同じで、その温度差を非常に感じました。ただ、拓銀破綻は、政府の社会実験だったと思います。本州の都銀であれば、経営破綻させるような対応はしなかったでしょう。

拓銀破綻のショックがあったからこそ、行財政改革一本槍から状況が変わります。それまでは公共事業はけしからんという雰囲気でしたが、このままでは北海道がもたないという状況が見えてきて、社会インフラへの支出という転換がありました。それがよかったかどうかはわかりませんが、PFIや官民連携のよいうな流れを組み込む状況も出てきました。

授業やゼミの思い出

山崎 講義やゼミの思い出について、お

聞きたいと思います。

伊関 札幌市役所の採用が決まっていた4年次の後期に宮脇先生のゼミを受講しました。その年はあまり大学に通っていませんでしたが、先生の情報をほとんど持っていなかったのですが、「この半年を無駄に過ごすのはもったいない」と思い、社会人に向けて何かしようと考えていた時に先生のゼミが目に残りました。受講のきっかけは先生の経歴が興味深く、面白そうだと感じたことです。ゼミには大学院生や札幌市からの派遣職員も受講していて、札幌市について聞く機会もありました。事前にそうした知識を得られたことは非常に大きかったと思います。

ゼミでは、毎週のようにテーマが与えられ、ディベートを行ったことがとても印象的でした。今でもよく覚えているのは「道州制」をテーマにした回です。新聞記事などで漠然と見聞きしていた話題を、自分なりの立ち位置から考えてみるということが非常に面白く、その後の社会生活のさまざまな場面で役立ちました。政策について思考するきっかけになるものだったと改めて実感しています。

4年後期というタイミングだったこともあり、ゼミにはやる気のある学生しかいませんでした。みんな単位は取得済みで「何かやろう」「何か学ぼう」という意識の高い人ばかりでした。よく飲みにも行きましたし、今でもゼミのメンバーとは付き合いがあります。むしろ4年間仲良くしていた仲間よりも最後の半年で知り

合ったゼミメンバーとの付き合いのほう
が今は多く、非常に良い出会いだったと
感じています。

縄野 私もゼミがあったからこそ、今も
伊関さんとながっています。

伊関 縄野さんは元々知っていました
が、ゼミの出会いのおかげで付き合いが
深くなりました。

縄野 伊関さんは政治関連のゼミ、私は
民法のゼミで、3年次はまったく接点
がありませんでした。

私も道庁への就職が決まっていたの
で、宮脇先生のゼミを受講して、伊関さん
をはじめいろいろな方との出会いがあり
ました。サッポロビールやJR北海道な
ど、民間企業の方もいました。

宮脇 学部生と院生を一緒にゼミにし
ました。公共政策大学院の原型になった
と思います。

山崎 私も当時は博士課程で、少し関
わりがありました。道庁や市役所の方々と
一緒に学んだ記憶があります。

縄野 我々にしてみると非常に新鮮で
した。博士課程の方や民間企業のゼミ生か
ら刺激を受けましたし、ゼミでのディ
ベートが印象的でした。道州制を取り上
げた時、賛成の人は反対の立場で反対の
人は賛成の立場と、逆の立ち位置でディ
ベートしたことをよく覚えています。相
手の立場で物事を考えるという意識付
けになり、この経験は今の仕事でも役立
っています。

山崎 当時は前期が講義、後期が演習で

した。

宮脇 最初の講義は税財政論だったと思
いますが、経済学研究科から、それはうち
の所管だと批判が出て、政治講座の先生
方が努力してくださって実現しました。

山崎 法学部に割り当てられている行財
政論ですか？

宮脇 行財政論という名称になる前に税
財政論という2単位の科目がありまし
た。途中から4単位になり、そのタイミン
グで名称も変えました。どこでも縦割
りの構造があると思いました。

高橋 私は3年前期に授業を受講しまし
たが、『図解 財政のしくみ』いっきにわ
かる財政危機の本質と問題点」がテキス
トでした。

ゼミは4年後期でした。当時の北大法
学部は3年で卒業に必要な単位を取り終
えることができ、ゼミ生は単位は必要な
いという人がほとんど。意欲があるか、変
わった人かのどちらかです(笑)。

私もゼミのメンバーとは今でも付き合
いがあります。キャリア官僚、日本政策投
資銀行、シンクタンク、地方自治体、民間
と、就職先もいろいろでした。

講義だったか、ゼミだったか覚えてい
ませんが、古い公共施設の建て替えが
テーマになり、起債による資金調達だけ
でなく、まだあまり知られていなかった
PFIのような手法をご教示いただきま
した。ディベートが事例研究で、北海道新
幹線を取り上げたことも覚えています。
30年前の、まだ函館開業すら不透明な時

期でしたが、新幹線を札幌まで延伸する
場合の資金調達や首都圏の人たちを納得
させる論理的な説明、課題、そもそも必要
か不要か議論しました。社会経験もない
学生でしたからアイデアや知識はほとん
どなかったのですが、誰かが貨物を運ぶ
なら重くなるので車両や線路のコストが
高くなる、費用だけではなく便益も試算
すべきだなどの議論がありました。



もう一つ、苫小牧東部(苫東)の工業地
域をどう再生・再興させるかというテー
マもありました。苫東に強い逆風が吹い
ていた時代でしたが、重厚長大のコンビ
ナートなどではなく、未来につながる新
しい産業を探すべきだという議論になっ
たと記憶しています。宮脇先生がロケッ
トでの荷物や人の輸送といった宇宙産業
の可能性についてお話されたのを覚えて

います。あれから30年。かつてはラピダス
など想像もできませんでしたが、今は苫
東に強い追い風が吹いています。苫東で
はないものの十勝では宇宙産業が育とう
としています。振り返ってみると、かなり
未来を予測できていた講義やゼミでし
た。

山崎 なぜディベートの手法を取り入れ
たのですか。

宮脇 公務員試験をはじめ、いろいろな
ところで、北大生、特に文系の学生はディ
ベート力が弱いと聞いていました。知識
はあっても主張もできるのですが、議論が
できないと。非常に残念に思っていて、議
論に強くなれば、人生の選択肢が増える
と考えました。シンクタンクなどは議論
だらけで知識がないことも感じていたの
で、この二つが噛み合えば非常にいい人
材に育っていくと思っていました。

公共政策大学院でもやりましたが、立
場を変えて考えることは大切です。縄野
さんが指摘したように、相手のことを理
解しなければ議論はできません。違う考
え方を主張できるかは重視しました。

テーマは、将来に向かって夢が持てる
ような苫東などを取り上げました。新幹
線も本州とつながらなくていいという声
はあるでしょうが、別の選択肢を考えて
みることも大切です。「新幹線があるとい
いね」というような夢を持つ議論をした
かった。特に、当時は高橋さんが言ってい
たように否定的な議論が多く、夢を持て
る議論ができて、かつ、それが次の時代に

結びつくテーマを考えていました。

公務員試験に関わる機会があれば「公共政策の面白いところはどこ」という質問しています。私の最も良い答えは「考え続けること」。なぜなら正解はないからです。どんな政策を提案しても必ず反対する人はいて、少しでも良いものを求め続けていく姿勢が大切です。そうすると考え続けなければいけません。それはディベートで磨かれていくと考えていました。

山崎 授業やゼミではどんな教科書を使っていたのでしょうか。

宮脇 先ほど高橋さんが話していた『図解 財政のしくみ―いっきにわかる財政危機の本質と問題点』を最初に使いました。法学部の皆さんに財政の仕組みを理解してもらいたいと採用しました。行政学の中にも財政の視点はありますが、少し遠い印象があって、文章だけではわかりにくいので、理解しやすい図解のテキストにしました。導入はわかりやすくして、さらに興味がある人は財投や分権の本を読んでもらうという考えでした。

公共政策大学院の設立

山崎 公共政策大学院の設立経緯や立ち上げ当時の思い出をお聞かせください。

宮脇 公共政策大学院は2005年4月に開設しましたが、当時は法学部に対する逆風が非常に強く、その原点は公務員改革でした。もともと国立大学の法学部

は公務員を輩出する機関でしたが、国立系法学部で政策学に焦点を当てていた大学はなく、初めて総合政策部を開設したのは、私立の慶応大学でした。

行革でどんな公務員数が減っていく中で、中央では法学部の存在意義について議論が出てきて改革の対象になっていきました。法学部には基礎法、法律系と政治系、少し細かく分けていくと国際系という構図があったと思います。これを変えていかなければいけないと指摘されるようになり、行革なので、教員定数減などが命題として降ってきます。それを跳ね除けるために、国立大学協会などで別の形を作っていくような議論が出てきました。法律系はダイレクトに法科大学院になりますが、問題は基礎法と国際系、政治系です。そこで政策をしっかりと考える人たちが育てるべきではないかという話が出てきました。私立系である程度の人気があることもわかっていたので、公共政策の枠組みができてきました。

当時は中村研一先生が本部におられて、法学系をどうするかという議論の矢面に立っていました。学内の道路ですれ違った時に、いきなり「公共政策大学院をやるべきでしょうか」と問われて、反射的に「はい」と答えていました。

その後は法学部内の検討で、基礎法は残すべきだとか、国際系をどうするかとか、いろいろな議論があり、政治系と国際系を柱にした政策系を作ることになって、東大の公共政策大学院を参考に

して検討が始まりました。

全国から学生を集めるためにどんな特色を持たせるかということで文理融合が出てきました。文科省からそれは無理だと否定されてしまいました。でも、工学系も災害や都市計画、まちづくり分野などは文系に近いところがあり、そこに相談してみると互いにウィンウィンになることがわかり、それぞれ教員を出そうと原型ができてきました。

最も苦労したことは、学内の場所探しです。中村先生と一緒に学内を見て回りましたが、戦国時代の陣地取り合戦と同じ状況でした。クラーク会館などいろいろなところを見て回って、最後に見つけたのが図書館の裏でした。

学生が集まるのかどうかも不安でしたが、一生懸命PRもしました。でも、新しいことを始める時は挑戦してくれる人も多く、初代院長としては場所探し以外の大きな苦労はありませんでした。

山崎 でも、初代の先生方は創成研究機構との調整で非常に苦労されていました。いろいろな人がいろいろな形で集まってくるので、立ち上げ時ゆえの苦労があったと思います。

宮脇 私は日本総研の立ち上げにも関わったので、その経験が生まれました。たが、工学系の先生とは発想が違っているので、文系と工学系でこんなに違いがあるのかということは初めて実感しました。

最初の入試では多くの方が関心を持ってくれて、たくさん学生が集まってく

たことは本当にうれしかったです。ただ、設置審議会の許可が遅くなってクレームもありました。

山崎 11月ごろに許可が出たはずですが。

宮脇 それから募集要項を公表するので普通では考えられないスケジュールでした。「何でもっと早く募集しなかったのか。早ければ受験した」という苦情がありました。ただ、それだけ注目されていたということ。学生もよく勉強してくれ、後輩も育ててくれました。国家公務員試験に臨む学生も出てきて、よく電話で面接や試験の相談も受けました。

山崎 当初は国家公務員試験対応のノウハウも蓄積されてい wasn't でした。

宮脇 公共政策大学院は国家公務員を輩出することが目的ではありませんが、そういう卒業生がいたことは一つのステツプで、みんな本当に頑張ってくれました。山崎先生の地方議会とのつながりなど、縄野さんが言っていたように、いろいろな人と資源を共有できる場になったと思います。現役組や転職組、定年後の学び直しなど、公共政策大学院のように多様な人が融合できる場はあまりないでしょう。立ち位置が難しい大学院ですが、歴代院長が努力して公務員を輩出するだけでなく、地域に根差すという素晴らしい特色も出てきました。公務員試験の合格者数が増えても数は質は測れません。いい意味で北大公共政策大学院が軌道に乗って、非常にうれしく思っています。

山崎 運営では、どんな点に注力したの

ですか。

宮脇 少数精鋭で講義もゼミのような感覚があったので、社会人学生をどう生かすかは考えました。社会人としての経験を、学部から院生になった学生にどう伝えていくかということです。社会人学生には教員が提供できない経験則があります。そこで付加価値を高めていくことは意識していました。また、今はエクセルである程度のことができるので、データ分析の活用や利用法は心がけていました。データで示すことができれば、無茶ぶりの主張を止めることができます。

山崎 皆さんは公共政策大学院に所属していませんが、何か関わりはありますか。

伊関 公共政策大学院が開設されると伺ったとき、非常に興味を持ったことを今でも憶えています。大学院にいらした先生方や卒業生の方々との接点もありまして、市役所の先輩の中にも卒業生がいらつしゃいます。私自身もいつか勉強してみたいという思いもありつつ、まだ実現できていません。それでも今なお関わりを持ちたいという気持ちがあり、公共政策大学院に対しては非常に大きな期待感を抱いております。

縄野 ロースクール時代に隣にある存在という程度で関わりはありませんでした。

高橋 仕事で時間的に余裕ができた時に、授業料を払って1年ほど聴講生になりました。聴講生だと試験はありませんが、単位を取得できます。宮脇先生のほか山口先生の講義、石井先生や山崎先生の

事例研究を受けました。非常に勉強になって頭の整理ができました。行政の取材をした後だったので、学生とは違った視点で学べて非常に良い経験でした。

卒業後も続くつながり

山崎 皆さんは卒業後も定期的な会合や先生を囲んだ勉強会を開催していると聞かれています。

宮脇 東京と神戸で開催しています。東京にいる卒業生はネットワークがなく、もったいないと思っていたので、財務省や総務省に入省した卒業生に声をかけて始めました。官僚だけでなく民間企業やテレビ局など、いろいろな人が参加してくれ、年に4回ぐらいの開催です。

神戸は、弁護士のご井口寛司先生が地方自治体への関心が高く、先生が創業した弁護士事務所が開催しています。3ヶ月に程度、一般人も含めて60人ぐらいが参加します。

継続することは大変ですが、いずれもまだ続いています。どちらも地域政策を軸にしてテーマを決めています。例えば、経済産業省に入省した卒業生は、地域政策としてのブランドづくりや中野区の再開発の問題など、幅広くまちづくりに関連した話題を取り上げていました。

山崎 卒業後、皆さんは先生とどんなお付き合いをしているのですか。

伊関 仕事での直接的な関わりはありませんが、ゼミでお世話になった縁から、

数年に一度は一緒にお酒を飲む機会をいただいております。先生から最新の研究のお話などを伺うことで、毎回刺激を受けており、とてもありがたく感じております。

山崎 どなたが幹事をしているのですか。

伊関 縄野さんです。

縄野 今の私があるのは先生のおかげと言っても過言ではありません。道庁時代に仕事でお世話になったことはありますが、伊関さんを含めたゼミ仲間と声をかけて一緒に飲む機会を設けて愚痴を聞いていただきました。私はもともと法曹界に進みたかった法学部に入学したのですが、当時はすぐに司法試験に合格するのは難しく、法律に携わることができない公務員になろうと道庁に入庁しました。でも暗鬱とした雰囲気の中で、正直言うとなかなかモチベーションが上がりません



でした。よく愚痴を聞いていただきましたが、先生からは「すぐに辞めるのではなく、10年はやってみなさい」と言われ続けました。

2004年に政策研究大学院大学に派遣となりましたが、その時も、先生に相談し、助言をいただきました。結局、その1年は貴重な経験になり、今も一緒に学んだ仲間が全国にいます。当時、北海道は国とのパイプが太い地方自治体という認識でしたが、外に出てみると北海道は課題先進地で、金食い虫、外国のような扱いであることを知りました。その後、道庁に戻りましたが夢を諦めきれず、また先生に相談して、ロースクールに入学し、今の仕事をしています。人生の岐路で常にサジェスチョンいただき、そのおかげで、今の私があるので、とても感謝しています。

高橋 私は仕事で本当によくお世話になっていきます。足下で起きていることだけでなく、それらのバックグラウンドも時間を取って教えて頂くなど、いろいろな局面で助けられました。

先ほどの東京の勉強会も、面白そうなテーマの時は休暇を取って札幌から参加していました。

宮脇 学生時代よりも社会人になってからのお付き合いが太くなっていて、私にとっても勉強になっています。年に一度くらいはメールで連絡を取って、一緒に飲んだり、質問を投げかけて教えてもらうこともあります。公共政策は間口が広く、研究室にいるだけではわからないこ

とが多い。その時に卒業生の皆さんの負担にならない程度でヒントを教えていただいています。卒業生にたくさん助けられていて、社会人になってからのネットワークが生きています。

山崎 90年代後半から時代も変わり、学生の気風や気質、志向も変わってきましたが、この変化をどう感じていますか。

宮脇 90年代の学生と一緒に学んで楽しかったといえますか、活動的でチャレンジングでした。ただ、だんだんチャレンジ力は弱くなっている気がします。いろいろな要因はあるのですが、何かやってみようというパワーが薄れています。皆さん優秀ですが、小さくまとまっている印象があります。行政機関、国家公務員の中でもある程度の地位まで上り詰める人が出てくると、よけいに小粒になってしまうというか、これでいいという風潮になりがちです。それから、北海道に住むことはいいのですが、もともとネットワークを広げてほしい。縄野さんが言っていたように、外から北海道がどう見られているのか、わからないと、お互いのコミュニケーションがねじれてしまうこともあります。拓銀の話題でも話しましたが、そんな雰囲気は地域性としてあります。今はインターネットが普及しているのですが、もともとネットワークを広げられるはずですが、小粒になっている気がします。

北大時代を振り返って

山崎 活動の中では、学外の研究者や実務家、行政官、政治家やジャーナリストなど、いろいろな方とお付き合いがあったと思います。

宮脇 日本総研時代は企業経営者と一緒に活動することが多く、印象に残っている3人の経営者がいます。1人はクロネコヤマト創業者の小倉昌男さんです。大手メーカーの配送で儲かっているのに、それを止めて宅急便の展開を始めました。規制緩和の検討で一緒にさせていたんですが「企業相手です。1人ではダメです。先は見える。個々のお宅にネットワークを持つことは面白いと思いませんか。郵政の領域に進出したい」と話していて、着眼点の鋭さを実感しました。

次が授業で講師をしてもらったセCOMの飯田亮さんです。彼は、権力に任せてはいけなさと、警察に立ち向かう気概でセCOMを立ち上げています。コミュニティもそうですが、自分たちで守るという視点が重要だと言っていました。

極めつけはスズキの鈴木修さん。とにかく日本一になりたい、だから自動車のない地域で日本一になると言っていて、インドやパキスタンで展開するようになり、政府と工場建設の交渉をすると軍隊がサポートしてくれて非常に効率的だと話していて、その発想に驚きました。経営者との仕事で、地域もそのような発想を持てば可能性が広がると思いました。

ただ、政治家はもうこりこりです。官邸

に呼ばれて、ある政治家から「付き合う相手を考えて」と言われたり、党内調整では当選回数から始まるなど、付き合っていないかもしれません。会うたびに意見が変わることもよくあり、あの世界は馴染めませんでした。ジャーナリストで肌が合わない人もいました。

山崎 最後に北大時代を振り返って、法学部同窓生に向けて一言お願いします。

宮脇 これまでは一度入った道から抜け出さず、その人生を辿るという社会システムでしたが、今はいろいろな形で再チャレンジができます。非常に環境がいい北大で学んだ卒業生には、もともとチャレンジする気概を持つてほしいと思っています。転職を勧めているのではなく、多様な発想や自由な心を持つてほしいのです。津軽海峡を越えると世界が変わるように、自由な発想で試行錯誤してチャレンジしてほしいと思います。挑戦する力が衰えているようで、とても心配しています。今は公務員をはじめ、多様な場面で北大生が活躍できる環境になってきています。それを生かして、いろいろなことにトライし

てもらいたいし、そういう気概を持つてほしいです。

山崎 会報誌を通じて、宮脇先生のエールを伝えたいと思います。今日はお忙しい中を東京からお越しいただきありがとうございます。3人の皆さんも座談会に盛り上げていただき、感謝いたします。本日はありがとうございました。



会費 2 万円で終身会員。他にも特典もりだくさん! 校友会ホームページはこちら▶



朝ごはんから、
留学まで。



 北海道大学校友会エルム
HOKKAIDO UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION ELM

校友会が支援します

会員募集中

カルチャーナイト倶楽部

■目的

1. 地域文化活動カルチャーナイトの運営を支援する
2. カルチャーナイトの参加施設の要請により、ボランティア活動を通じて北海道の文化や産業に貢献する
3. 音楽会、講演会、食事会等の例会活動によって会員相互の学びと交流を図る

■役員

会長 小林 隆一（北海道警察 OB）
副会長 小野垣親士（HBC 北海道放送 OB）
幹事長 常俊 優（北海道電力 OB）

■入会方法

1. カルチャーナイト友の会に入会する（年会費3,000円）
2. 「企画」「組織」「食・料理」「家庭菜園」「健康・スポーツ」「文化」のいずれかのグループに所属し、交替で運営に当たる
3. 入会希望の方は、お名前・住所・電話＆ファクス番号・Eメールをお知らせください。資料をお送りします

連絡先／事務局

札幌市中央区北4条西7丁目5番地緑苑第2ビル707号室
電話＆ファクス：011-797-8145
メール：club.culturenight@gmail.com

例会の活動紹介



北海道大学構内名所めぐり
（佐藤昌介総長の胸像、新渡戸稲造の胸像 他）



講演会
「そうだ、北海道がある! ～HOKKAIDO PRIDE～」

カルチャーナイトとは？

公共施設や文化施設、民間施設を一年に一日夜間開放して、市民が地域の文化を楽しむ行事です。大人も子どもも、その地域に住む皆さんはもちろん、観光客の皆さんも参加することができます。市民と企業と官庁が協働して創る北海道の地域文化活動です。

学部・大学院法学研究科・法科大学院の動き

教員の動き

教員の転出等

令和6年9月末には准教授の前田亮介先生、助教のSok Vanny 先生が、10月末には助教のLin Zan Hong 先生がそれぞれ退職されました。

令和7年3月末には、教授のHazarach Branslav 先生、嶋拓哉先生、空井護先生のほか、准教授の馬場香織先生、特任教授の権左武志先生、助教の中田翔太先生、山中仁吉先生、がそれぞれ退職されました。

新任教員等

令和6年10月に、木下和朗先生が教授として着任され、令和7年2月には川久保寛先生が教授に昇進されました。

令和7年4月には、Kwong, Qijun 先生、松本洵先生が准教授として着任されました。

法科大学院では、特任教授に綱森史泰先生、濱岡恭平先生、渡邊宙先生、大崎康二先生、林順敬先生が着任されました。

学生の動き(法学部・大学院法学研究科)

入試と新入生

令和7年度の法学部入学者は185名(定員180名)で、道内出身者が70名(37.8%)、道外が115名(62.1%)となっています。

道外出身者は前年度と比べ、ほぼ同数で、その他の内訳では、現役が128名(69.2%)、過年度卒業生が57名(30.8%)、男子学生は117名(63.2%)、女子学生は68名(36.8%)となっています。

また、平成23年度から導入された総合入試制度の総合入試文系入学者は100名(定員100名)となっており、この中の約20%の学生が、来年4月から法学部2年次に移行します。

卒業生と就職先

令和6年度の法学部卒業生は、218名(男子143名、女子75名)です。

そのうち、就職した者は154名で、就職先は公務員が24.7%(国家公務員6.5%、地方公務員18.2%)と最も多く、次いで、金融保険業(18.2%)、製造業(18.2%)、情報通信業(7.1%)となっています。

なお、就職先が道外の学生は119名

(77.2%)、道内の学生は35名(22.7%)です。

また、進学者は41名、その他(公務員試験、大学院受験の準備など)は23名となっています。

学生の動き(法科大学院)

入試と新入生

法科大学院においては、例年、札幌試験場で入試を実施しており、令和7年度の法科大学院入学者は計45名(定員50名)で、2年課程入学者が31名、3年課程入学者が14名となっています。

入学者の内訳は、本学法学部卒業生が17名(38%)と4割程度を占めており、道内大学出身者が24名(53%)、道外大学出身者が21名(47%)で、道内大学出身者は令和6年度の57%と比べて、やや減少傾向となっています。

その他の内訳では、新卒者が32名(71%)、過年度卒業生が13名(29%)で、社会人(社会人経験1年以上)は7名(16%)となっています。

修了生と就職先

令和6年度の法科大学院修了生は、計

31名(2年課程20名、3年課程11名)です。そのうち、法学研究科専門研究員として司法試験受験を目指す者は17名(55%)です。

なお、法科大学院における令和6年司法試験合格者数は、在学中受験11名、修了生6名の計17名(合格率の全国大学順位は47大学中17位)であり、司法試験に対する本学法科大学院の累積合格者数は670名です。



同窓会報

北大東京同窓会

北大東京ジンパ

2024年5月19日(日)に北海道大学東京同窓会主催の「北大東京ジンパ2024」が東京都立川市の国営昭和記念公園で開催されました。

コロナ禍の影響で開催を控えておりましたが、2023年に四年ぶりに開催でき、五年ぶりの本格開催では、ジンパの前に「同時に鉄板焼きをした最多人数」のギネス記録に挑戦するイベントが開催されました。札幌から駆け付けた北大賛金総長らに加え、798人がギネス記録を達成しました。

学部別の人数は掌握しておらず、法学部同窓生の参加数もわかりませんが、ジネスカンとビールで歴史的瞬間を共有した一日になりました。

※集合写真は4段目に掲載

特別シンポジウム

現在北海道千歳市では、2027年度の量産開始を目指し、Rapids株式会社が半導体工場「IIM(イーム)」の

建設を進めています。

2024年10月17日(木)には、北大主催で半導体関連の特別シンポジウムが学士会館(千代田区神田錦町)で開催されました。

ラピダス千歳進出を契機に北大が北海道の半導体エコシステムの中核となるべく企画されたものです。

開催にあたって北大東京同窓会事務局の廣重晃以(法学部昭和55年卒)さんを中心として同窓会としても協力しました。当日は半導体関連の企業関係者150名が集い大盛況でした。

新年交礼会

2025年1月17日(金)には、東京同窓会主催の新年交礼会が97名の参加を得て明治屋ホール(中央区京橋)で開催されました。

このうち法学部同窓生が23名と全体の二割を超える参加となりました。

JAZZ研OB・OGのジャズ演奏が流れる中で懇談が進み、最後に肩を組んだ円陣で『都ぞ弥生』を合唱し散会しました。

※集合写真は3段目に掲載



事務局スタッフ交代

これまで事務局を支え、札幌の法学部同窓会との窓口となってお世話になった廣重晃以さんが2025年3月末で退任されました。これまでのご尽力に御礼申し上げます。

4月より松浦優美子(文学部平成7年卒)さんが後任となりました。



北大同窓会佐賀県支部

大宅公一郎支部長

北大同窓会佐賀県支部の大宅公一郎支部長は、農学部を昭和52年に卒業し佐賀県庁で農業基盤整備に努め、現在も佐賀県技術士会に所属しております。

佐賀県内の北大同窓会員は少なく、佐賀県青春寮歌祭への参加者も限られますので、恵迪寮同窓会九州北部地区の皆さんに応援を働きかけております。

令和七年三月二十二日に福岡県久留米市での集まりに大宅支部長が参加して交

流を深めました。

佐賀と北海道

佐賀県内では、島義勇は「佐賀の乱」の主導者として反乱人扱いされておりました。

明治新政府では判官に任じられ、北海道の開拓、札幌の開府に着手し、サッポロと呼ばれ芦原の広がっていた地を「他日五洲 第一の都」と詠じましたが、半年ほどで東京に召還されました。

人口が百八十万人を超える大都市札幌の礎を築いた先人の功績は、道内の小学校の授業でも学ばれ、札幌市役所のロビーには島義勇の銅像が建っております。

大宅支部長が北大入学後、親しみをもって迎えられた下宿先で、島義勇の存在の大きさを知り、「北大同窓会佐賀県支部は島義勇を通じて、北大、札幌と連携を深めたい。」と力説しております。

島義勇顕彰祭

令和七年四月十三日、北海道神宮参集殿で、「開拓判官島義勇顕彰祭」が開催されました。

島義勇の親族や、山口祥義佐賀県知事、初代の県令（知事）を務めた秋田県関係者などが参

加し、県立佐賀城本丸歴史館の古川英文前副館長が「義勇と蝦夷」について講演を行いました。

明治七年、島義勇実弟の副島義高が党首となり、佐賀に憂国党が、結成されると、太政大臣三条実美の密命を受け説得のために佐賀に向かいましたが、副島義高に頼まれ憂国党党首となり、「佐賀の乱」が勃発すると、捉えられ佐賀の地で斬首に処されました。

没後四十二年の大正五年、大正天皇より従四位が追贈され名誉を回復しております。



佐賀戦争慰霊祭

佐賀県では、「北海道開拓の父」とされる島義勇や明治政府の初代司法卿を務めた江藤新平らの功績を再評価する復権プロジェクトが展開されています。

令和七年四月十二日には「佐賀の乱（佐賀戦争）」で犠牲となった旧佐賀藩士ら212人を弔う慰霊祭が佐賀市万部島招魂場で行われました。

近代日本司法制度の父

佐賀藩士江藤新平は、明治新政府内で江戸の民生行政に関り、岩倉具視に「江戸を東京と改称すべきこと」を献言しました。

明治四年、初代・司法卿に就任し一年半余りの期間に、司法権統一、司法と行政の分離、裁判所の設置、検事・弁護士制度の導入など、司法改革に力を注ぎ、「近代日本司法制度の父」と称されております。

明治六年、参議に就任した江藤新平は、朝鮮出兵を巡る対立で西郷隆盛、板垣退助、副島種臣と下野し、「明治六年の政変」と呼ばれています。

明治七年に佐賀に入った江藤新平は佐賀征韓党の首領として擁立されました。

同じく憂国党党首となった島義勇と共に佐賀の乱勃発後に捉えられ、東京での裁判を望みましたが、佐賀の地で弁論や釈明の機会も十分に与えられないまま死刑を宣告され、斬首に処されました。明治政府の「処刑ありき」ともいえる思惑があつたようにも伺われます。

佐藤信孝法律事務所

弁護士 佐藤 信孝
(北大LS卒)

〒001-0048 北海道北見市北四条東三丁目
A1G北見ビル四階
電話 (011) 571-5711
FAX (011) 571-5713





役員会の様子

同窓会 歳時記

同窓会の2024年度
(2024年7月～2025年6月)
事業などを中心に
時系列で

- 2024年7月11日(木)
2024年度同窓会役員会の開催
- ① 時間…午後6時から7時30分
 - ② 場所…北大人文・社会科学総合教育
研究棟(W棟)4階401号会議室

- ③ 出席…役員18名
- ④ 挨拶…佐々木亮子会長
尾崎一郎法学研究科長・
法学部長
- ⑤ 議案…総会提出議案を審議、承認
- ⑥ 報告…「第3回北大法学部同窓会賞」
授賞式の開催など
- ⑦ 会報第40号第3回(最終)編集委員会
(委員長山崎幹根北大教授)…

発行予定日7月22日
全国配送日7月31日

- 2024年7月22日(月)
楡苑第40号(記念号発行)の発行
- ① 印刷…(株)須田製版(札幌市西区)
 - ② 印刷部数…8000部
 - ③ 送付先…(株)サラト(兵庫県姫路市)

2024年7月31日(水)

- 楡苑第40号の会員への発送
- ① 委託先発送者…(株)サラト
 - ② 郵送先…郵送先届出の卒業生会員全
員(原則として勤務先は除く)、終身
会費を7月1日までに納入済みの在
学生会員

- 2024年9月28日(土)
「北大ホームカミングデー2024」文
系4学部・同窓会合同企画公開シンポジ
ウム
- ① 時間…午後2時～4時



定時総会 会長挨拶

- ② 場所…人文・社会科学総合教育研究
棟
 - ③ 標題…「いじめに無関心でいられな
い人たちへ」
 - ④ 方法…集客開催とオンラインでの同
時配信
 - ⑤ 参加者…127名
 - ⑥ 講演…加藤弘通准教授
 - ⑦ 対談…加藤弘通准教授と北海道放送
(株)泉優紀子記者
- 2024年度定時総会
- ① 時間…午後5時～5時40分
 - ② 場所…北大インフォメーションセン
ター「エルムの森」内「カフェデ
ー」
 - ③ 参加者…20名
 - ④ 議案…7月11日開催の役員会で承認
された次の議案



定時総会 法学研究科長・法学部長挨拶

- ⑤ 新会長就任…議案第3号の役員改選
により、佐々木亮子氏(23期)が同窓
会長を退任され、藤田美津夫氏(27
期)が新たに同窓会長に就任。
- ・2023年度事業報告(案)
- ・同収支決算報告(案)
- ・収支差額67万円の黒字決算
- ・2024年度事業計画(案)
- ・同収支予算(案)
- ・収入と支出がそれぞれ前年度より
5万円増とした320万円の収支
均等予算
- ・役員改選(案)を審議し、全会一致
で承認。

- 同窓会主催講演会
- ① 時間…午後5時40分～6時30分
 - ② 講師…尾崎一郎北大法学研究科長・
法学部長



懇親会 藤田新会長乾杯

- 法学部同窓会会員懇親会
- ① 時間…午後6時30分～8時30分
 - ② 参加者…33名
 - ③ 会長挨拶乾杯 藤田美津夫会長
 - ④ 締めの挨拶 岡田信弘会計監査



講演会

- ③ テーマ…北大法学部の70年を振り返り、これからの70年を考える



懇親会 締めの挨拶



懇親会の様子

- 2024年9月～10月
同窓会ホームページの更新

榆苑第40号や、2024年定時総会開催報告を掲載。

会報の贈呈

榆苑40号を国立国会図書館に2部贈呈。

2024年11月14日(木)

会報第41号(2025年度版)第1回編集委員会の開催

- ① 時間…午後5時～6時15分
- ② 場所…法学部棟2階小会議室
- ③ 委員長…山崎幹根北大教授
- ④ 協議…第41号の編集方針、企画構成概要、主な出筆者選出など
- ⑤ 原稿依頼作成…委員長と事務局で推進

2024年12月30日(月)

新年挨拶文の郵送

- ① 送付先…在学同窓会会員(1年から3年生)(名記載した保証人宛て)
- ② 送付部数…731通
- ③ 内容…会長から、新年挨拶と同窓会活動報告、会費未納会員へのご協力をお願いなど

2025年1月10日(金)

事務局長引継ぎ

- ① 退任…高橋 了(23期)
- ② 就任…猪飼秀一(28期)
- ③ 引継…事務室鍵引き渡しなど

2025年1月21日(火)

2026年版会員名簿対応

(株)サルトと名簿作成について協議

2025年2月19日(水)

会報第41号第2回編集委員会の開催

- ① 時間…午後5時30分～
- ② 場所…法学部棟2階小会議室
- ③ 委員長…山崎幹根北大教授
- ④ 協議…構成案の概要と原稿作成者選考について協議し、原稿作成を推進

2025年3月8日(土)

榆苑41号座談会開催

- ① 時間…午後2時～4時30分
- ② 場所…公共政策大学院
- ③ 対応…宮脇淳名誉教授を囲んでの座談会の写真撮影など
- ④ 掲載…榆苑41号

2025年3月9日(日)

卒業(修了)確定者への挨拶文の郵送

- ① 送付先…2025年に卒業(修了)する学生番号公表を受け、卒業(修了)する同窓会会員名記載した保証人宛て
- ② 送付部数…252通
- ③ 内容…会長祝辞と、佐々木雅寿法学

研究科長・法学部長のご祝辞。

- ④ 会費関係…送付部数252通のうち
会費納入済みの方は42.4%、107
名。

2025年3月25日(火)

「令和6年度修士・学位記授与式の開催」

- ① 時間…午前10時
② 場所…第一体育館
③ 授与…各学部の総代に授与
④ クラーク賞…法学部は鈴木宗太君
⑤ 三年次卒業生…4名

令和6年度修士・専門職学位・博士学位記
授与式の開催

- ① 時間…午前11時15分
② 場所…第二体育館

第4回北大法学部同窓会賞授与式の開催

- ① 時間…午後1時30分
② 場所…法学部棟2階小会議室
③ 内容…詳細は本号31頁に掲載。

2025年3月31日(月)

在学生への挨拶状郵送結果

総数…983通
内訳…法学部1年～3年生等731通
卒業(修了)252通
会費納入…356名
納入率…36.2%

2025年4月4日(金)

令和7年度入学者入学式

- ① 場所…札幌コンベンションセンター
② 学士課程…2,592人

2025年5月14日(水)及び同23日(金)

新入生への挨拶文の郵送

- ① 送付先…法学部、並びに大学院法学
研究科(修士・博士)及び法科大学院
入学生(いずれも北大法卒者を除く)
への新入生名記載した保証人宛。
② 送付部数…216通
③ 内容…
・会長祝辞と会費納入のお願い
・佐々木雅寿法学研究科長・法学部
長のご祝辞

- ④ 会費納入状況…6月30日現在49名、
約22.7%

2025年6月6日(金)～同8日(日)

第67回北大祭



第67回北大祭

模擬店の出店などで賑う

賛助金(法学部同窓会名義の名刺広告
代)の支援

2025年6月15日(日)

2025年度校友会エルム定時総会

- ① 時間…午後3時30分
② 場所…北大百年記念会館大会議室
③ 方式…オンライン会議と対面会議の
併用
④ 対応…藤田会長(校友会エルム理事)
と猪飼事務局長(同評議員)対面会議
出席
⑤ 内容…
・役員改選で真弓明彦理事が会長
に、藤田美津夫理事が副会長に就
任

・北海道大学創基150周年記念事
業の説明
記念式及び記念イベント
日時…2026年9月26日(土)・27
日(日)

日(日)

場所…札幌文化芸術劇場
hitaru/札幌文化
芸術交流センターISCA
RTS
住所…札幌市中央区北1
条西1丁目
その他…2027年ホー
ムカミングデイは開催し
ない。

交流会…

- ① 時間…午後5時



真弓会長挨拶



エルム定時総会

② 場所…インフォメーションセンター
「エルムの森」

③ 対応…藤田会長と猪飼事務局長出席

④ 他の法学部卒出席者

・植松高志²⁴関西同窓会

・野村修一²⁵新潟エルム会

・石川裕一³⁰東京同窓会

・廣重勝彦³³東京同窓会

・田口敦史⁴⁴中部地区同窓会

⑤ 「都ぞ弥生」合唱

前口上・エールは植松高志²⁴関西同窓会長

(丸数字は卒業期)



エルム交流会

2025年7月5日(土)

第41回法経対抗ゴルフ大会

① 時間…正午スタート

② 場所…札幌エルムカントリークラブ

(恵庭市)

③ 主催…経済学部と共催

④ 法学部出場者…7名

⑤ 法学部幹事…樋口知己⁴¹

⑥ 助成…大会運営費の一部、経済学部同窓会と折半。



ゴルフ大会

2025年6月30日(月)
2024年度収支決算確定

収入 3,299,691円

支出 3,161,878円

単年度収支差 137,813円

次年度繰越金 16,296,537円

(当該収支決算報告書は、会報裏表紙に掲載。)

年度別繰越金の推移

2016年度 317万円

2017年度 696万円

2018年度 832万円

2019年度 968万円

2020年度 1,242万円

2021年度 1,414万円

2022年度 1,548万円

2023年度 1,615万円

2024年度 1,629万円

役員一覧 2024年度総会選出

会長…藤田美津夫²⁷ 小口正範²⁹

副会長…本間修²¹ 高橋了²³

大杉定通²⁴ 町田隆敏³¹ 原敦子³¹

顧問…五十嵐三津雄¹⁴ 後藤徹¹⁵

相馬秋夫¹⁷ 上野徹¹⁶ 佐々木亮子²³

常任幹事…石川恒夫⁶ 児玉忠¹⁵

西谷内力世²⁰ 岩崎謙司²³ 稗貫俊文²³

伊藤誠一²⁵ 忠嶋隆²⁵ 荒谷俊尚²⁸

吉野三郎²⁸ 猪飼秀一²⁸ 若林秀博²⁹

石川裕一³⁰ 工藤寛³⁰ 中西猛雄³⁰

阿部英敏³² 廣重勝彦³³ 川畑恵³³

成田祥介³⁴ 鈴木賢³⁶ 曾野裕夫³⁸

木下範彰⁴⁰ 樋口知己⁴¹ 山崎幹根⁴¹

斉藤宏信⁴³ 村上英治⁴⁴ 高橋武顕⁵¹

大西 岳⁵³

尾崎一郎(法学研究科長・法学部長)

岡野賢(法学研究科・法学部事務長)

会計監査…城下裕二³⁴ 森越壮史郎⁴⁰

*敬称略、丸数字は卒業期

*2024年12月15日、法学研究科長・法学部長に佐々木雅寿教授が就任されま

したので次回総会にて役員改選を行います。

事務局長から

猪飼 秀一



昭和52年法学部を卒業し北海道に勤務した後も、道の出捐団体や道職員OBの団体と46年余り、道行政に関係する仕事に従事してきました。

年は73歳ですが、前任の高橋了先輩からの働き掛けもあり、本年1月から法学部同窓会に勤務しております。

法学部在学中は、中村睦男先生のゼミで、判決文を読み込み、レポート作成にご指導を頂いた薫陶が、道の実務対応に役立ちましたので、「学問の師匠」を有することの大切さを実感しております。

法学部同窓会の業務を一人で担うことは、通常の脳活をはるかに凌駕するエネルギーを要します。

ここまで、藤田会長はじめ役員の皆様や佐々木法学研究科長のもと学部事務室の皆さんのご協力を頂き、日々の業務に対応させて頂いておりますことに感謝申し上げます。

会員の皆様との連絡や交流に努めて参りますので、ご意見や情報の提供など、メールを頂ければ幸いです。

北大ロース卒は躍動する

ロースクール生活を振り返って

鍛冶 香織

令和元年北大ロース修了



この度、「楡苑」にて執筆させていただく機会をいただき、大変うれしく思います。

私は、法曹を志し、司法試験を目指すにあたり、札幌の他大学を卒業した後、ご縁がありまして北大ロースクールの既修者コースに入學いたしました。北大ロースクールを卒業後は、司法試験・二回試験を経て、現在は札幌市内の法律事務所にて弁護士として働いております。

北大ロースクールでの生活を振り返ってみると、決して平坦な道のみではなく、勉強面では悩みや不安がつきなかつたように思います。私は、要領が悪く、学部生時代まで、本質を正確に理解する勉強の仕方が身につかないままやり過ごしており、ロースクール1年目は授業と司法試験の勉強の両立はもつてのほか、授業についていくことだけで精一杯でした。予習と復習のい

ずれに重点を置くべきか、自分の授業への向き合い方は正しいのか、日々悩みながら毎日进行を過ごしており、優秀な周囲の同期と比べて落ち込むこともあったかと思えます。この勉強面・精神面でのプレッシャーが複合的にのしかかる環境は、ロースクール特有の厳しさであり、今後法曹を目指すうえで自己管理能力と精神的な強靱さが試される場であつたと痛感しています。

そうした中で、北大ロースクールの先生方には大変お世話になりました。刑法の城下裕二先生には、1年生のときの刑事事例問題研究を履修していた時期に、テーマごとの裁判例を事例形式にして基本問題、応用問題のそれぞれ1問ずつ出題いただき、答案を起草するうえで裁判例を勉強するという意味を教えていただきました。また、憲法の佐々木雅寿先生には、公法事例問題研究を履修していた時期に、調査官解説等にも触れたうえで、法解釈の深い理解、判例の背後にある考え方を教えていただきました。さらに、両先生には、オフィスアワー等を利用して研究室にお邪魔して質問をしておりましたが、私が授業だけでは十分に理解することができなかった点を分かりやすく丁寧にお答えいただきました。紙面の都合上、お名前を挙げるのは2人の先生にとどめておりますが、2人の先生

以外にも北大ロースクールの先生方には、私が質問した際に嫌な顔一つせず、いつも丁寧にお答えいただきました。学部生時代は基本的には独学での学習が多かつたため、単なる試験対策にとどまらない条文・判例への向き合い方を学ぶことができたのは、北大ロースクールでしか得られない大変貴重な学びの機会でした。現在、私も北大ロースクールの司法試験の過去問を題材にした「刑事法ゼミ」という授業にて非常勤講師としてお手伝いさせていただいておりますが、こうした先生方を見倣い、少しでも学生さんの役に立てるような指導ができるよう日々精進してまいりたいと思います。

また、北大ロースクールでは、司法試験の勉強だけではなく、実務に触れる機会が豊富に用意されていた点も、ロースクールならではの大きな利点でした。2年生になり実務家教員の先生との授業が始まると、実務家視点から事例の見方を教えていただきました。模擬裁判やローヤリング・クリニクでは、法律が社会でどのように機能し、人々の生活に影響を与えるのかを肌で感じる貴重な機会となりました。さらに、実務家の先生には、懇親会を開催いただき、司法修習での生活や現役の法曹としての生活をざっくばらんにお話しいただくこともあり、司法試験の勉強

強をしていくうえで大変刺激となりました。

そして、北大ロースクールでは、同じ目標を持った同期とのかけがえのない繋がりを得ることができました。ロースクール生活の中で、授業の予習復習や司法試験の勉強の合間に同期同士で飲み会をしたり、同じ自習室の同期とお誕生日会をしたり、勉強の悩みを相談することもありました。優秀な同期から勉強の方法や考え方を聞くことができることで、自分一人では得られない多くの気づきがあり、自分自身の勉強の内容を改善する機会にもなりました。

弁護士として実務に就いた今、北大ロースクールでの経験が様々な形で糧となっていることを実感しています。北大ロースクールで培った法的知識や分析力は、日々の事件処理において、事案の核心を見抜き、適切な解決策を導き出すための基礎となっています。膨大な文献や判例を読み解き、論理的な文章を作成する訓練は、準備書面や意見書の作成にそのまま活かされています。一方で、今年で弁護士となり4年目になりましたが、まだまだ未熟な点が多く、北大ロースクール卒業後も日々勉強ということを痛感しております。北大ロースクール生活での日々を忘れずに、今後も弁護士業務にあたり日々精進してまいりたいと思います。

フレッシュ新社会人始動

北大時代の学びを糧に

末永 向日葵

2024年卒業(第75期)



北海道大学の卒業式を迎えてから早くも1年が経ちました。現在私は札幌市

職員として働いており、職場の方々や家族、友人に支えられて充実した毎日を過ごしています。この度「楡苑」への掲載の機会をいただいたので、北大法学部を目指した経緯を振り返りながら今の私を支えている北大時代に身につけた考え方を伝えたいと思います。

札幌市で生まれ育った私にとって、地元であり、父の母校でもある北海道大学に入学して、その広大なキャンパスで学生生活を送ることは幼い頃から憧れでした。学部については、高校在学中に裁判所を見学したことをきっかけに法律に興味を持ち、法学部を選択しました。

大学入学後は新型コロナウイルスの

影響で、ほとんどがオンライン授業になるなど想定外の連続でした。3年生になる頃には対面中心の授業が始まって友人や先生方との関わりも増え、イメージしていた活気あふれる学生生活を過ごせるようになりました。

学校生活全体を振り返ってみますと、多様な授業形態や慣れないパソコン操作への対応に悪戦苦闘することも多かったですが、SNS等を活用して友人との交流を深め、共に学問に励むなど、コロナ禍だからこそその学びを得ることができた貴重な4年間でした。

このような学生生活の中で今の私の原動力になっている二つの考え方を培うことができたと感じています。1つ目は「新しい環境を前向きに捉えて、積極的に一歩を踏み出す」という考え方です。先生方がコロナ禍における学生の交流機会を増やすために、オンライン授業でチャット機能などを活用するなど様々な工夫を凝らしてくださったおかげで、対面以外にも交流の道はいくらでもあると気づくことができました。初めは抵抗感があったWeb会議アプリも、慣れると利便性が高い有効な交流手段の1つになりました。この経験から、今までの手段が通用しない新しい環境下でもできることを積極的に試してみようと考えられるようになりました。

した。それからは友人とオンラインで勉強会を行ったり、講義後に積極的に先生に質問したりするなど行動力が向上して、自分の言動に自信が持てるようになりました。

2つ目は「多様な考えや価値観があることを受け入れ、その上で自分のあり方を確立する」という考え方です。講義や勉強会、ゼミでの討論などを通して、自分とは異なる意見や学説に触れる機会が多くありました。特に討論では相手の見解やその背景を理解できていないと、お互いの主張がかみ合わず自分の意見も正確に相手に伝えられないことを学びました。その結果、日常でも相手の話をよく聞き、自分とは異なる見解を受け入れた上で考えをまとめるようになり、それを常に意識することで以前よりも多角的で柔軟な思考ができるようになったと思います。

現在私は北区役所の保健福祉課に所属しており、介護保険の認定や障害福祉サービスの決定などの業務を行っています。特に障害福祉サービスは複雑な制度設計になっており、理解が追いつかないことも多いですが、担当地区は異なるものの他の職員も同じ内容の業務を行うので、疑問があればすぐに周りの職員に相談したり、時には関係機関と調整するなど、積極的に行動に

移すことで、困難に見える案件でも円滑に解決することができています。

また様々な背景を抱えた市民の方と接する機会も多いので、傾聴し理解に努めて、相手の立場を考慮した柔軟な対応ができるよう日々心掛けています。

正直なところ大変な業務も多く、思い悩むこともあります。が、気軽に相談し合える仲の良い職場環境で、上司や先輩職員、同僚に支えられてこの1年を乗り越えてきました。今後も北大での学びを糧に努力を続けることで将来的には札幌市政をリードできるような人材になりたいと思っています。

そして自分の業務に責任をもって取り組み、札幌市に貢献していくことを通して、北海道大学でのかけがえのない日々を支えてくれた家族や友人、先生方に少しでも恩返しができるように尽力してまいります。

大箸法律事務所

弁護士 大箸信之

(平成14年度卒学部・平成16年度卒院)

〒001-0801 旭川市六条通八丁目三十七番地二十二

68ビル四階

電話 (011) 667-3148 93

FAX (011) 667-3148 94

同窓生所感

神戸にて

高橋 洋一

1975(昭和50)年卒業(第26期)



札幌から神戸へ

北大教養部(文類)に入学した1970年は、いわゆる「70年安保」を迎え、メインストリートではヘルメットにゲバ棒姿の団が盛んにデモ活動を行っていました。

法学部に移行後は中村睦男先生のもとで憲法を学びました。

札幌の、今は「創成川イースト」と呼ばれる界限で過ごし、北大卒業後は札幌市に勤務し、在職中には情報公開制度に携わるなどして定年を迎えました。

その頃から妻が雪道での歩行に屢々不安を訴えるようになったことなどがきっかけで、かねて関心を抱いていた京阪神地域への転出を考えていましたが、2018年に神戸市に居を定めるに至り

ました。

2020年に中村睦男先生のご逝去を新聞報道で知り、離札の挨拶に伺ってから間もないことに驚き、深い悲しみを覚えてきました。

兵庫県

「兵庫」という地名は、大化の改新の後、須磨関を守るために関門に朝廷の武器庫「ツワモノグラ」が設けられたことに因みます。

明治元年兵庫県が置かれ伊藤博文が初代官選知事となり四代知事には陸奥宗光が就任しております。

明治七年に播磨、但馬、丹波、淡路が加わり、摂津と併せ旧五国から成ることとなりました。

兵庫県知事

兵庫県では、戦後四代60年にわたって自治省等官僚出身の副知事が知事に就任しておりました。

五期20年務めた井戸敏三知事の後任を巡る2021年7月の知事選では、大阪府で財政課長を務めた斎藤元彦氏が初当選しました。

不信任案可決と出直し選挙

2024年3月に、「斎藤元彦兵庫県知事の違法行為等について」と題された告発文書が外部通報機関に匿名で送付され報道が全国的に広がり、同年6月13日には県議会に、地方自治法100条の「文書問題調査特別委員会」(百条委員会)が設置されました。

7月には告発した職員が自死したことにより報道が過熱し、9月には議会は、斎藤知事不信任案を全会一致により可決しました。

斎藤知事は議会解散という対応をせず、敢えて失職することを選択し、10月31日告示の知事選挙に立候補しました。

全国紙の報道では、前尼崎市長の候補がやや優勢とのことでしたが、自らの当選を求めない立候補者がマスコミで報道されない事柄を演説や、SNSで発信するなど異例の展開もみられ11月17日投票終了した午後8時に報道各社が斎藤元知事の再選確実を報道する結果となりました。

地域からの目線

日の浅い兵庫県民としては、日頃から県政について特段意識することなく過ごしておりました。

ただ、議会から不信任決議を受け出直し選で再選したのは2002年長野県の田中康夫知事であり、全会一致で不

信任議決を受けて失職した前知事が二ヶ月後の選挙でまさか当選するとは思わず、万が一当選したとすれば県民は何を考えているのかと思われる気がしておりました。

しかしながら、予想していなかった状況ですし、内部告発への対応問題が特に気になっており、議会の動向にも注目していました。

その後の展開を見ると、再選後の斎藤知事は、百条委員会や自らが設置した第三者委員会の相次ぐ調査結果を受け入れず、公益通報者保護法への対応などにみられるように、頑なに法軽視の姿勢をとり続けており、法執行者としての適格性を欠く事態が生じています。また、これらに関連していくつもの告訴、告発が相次いでなされていきます。

このようにして兵庫県が注目を集めていますが、注目されないよりはいいのかもしれないながら、県政の動向を見つめています。

みらい共同法律事務所

弁護士 川村 明伸

(平成9年卒48期)

〒100-0001 札幌市中央区南一条西十丁目

第二タイムビル九階

電話(011)261-9111

FAX(011)261-9113

蓮の花の咲くように

市毛 智子

2000(平成12)年卒業(第51期)



法学部の先輩で弁護士として活躍されている成田教子さんのお声がけで、楡苑に原稿を掲載する機会をいただきました。

私は、高校まで千葉県松戸市で過ごしました。江戸時代徳川幕府は、江戸川に面した葛飾柴又と対岸の松戸に渡し場を設け、「矢切の渡し」と呼ばれました。1983年第25回日本レコード大賞を受賞した『矢切の渡し』の舞台といえば皆さん思い当たるのではないのでしょうか。

弁護士を目指し、縁あって北大法学部に進学することになりました。津軽海峡を越えて北へ向かうことにも抵抗はありませんでした。入学前に見学した恵迪寮は、入寮はしませんでしたでしたが明るい雰囲気は記憶に残っております。

学部卒業後は大学院で司法試験の

勉強に励み、2年次に合格しました。在学時は、白取祐司先生の刑事訴訟法のゼミでお世話になりました。

弁護士としての活動は札幌をメインとしましたが、2013年から7年ほど、当時務めていた弁護士法人が出したニセコ町の支所でも勤務していました。

事務所はニセコ駅や町役場に近い中心部にあり、蘭越町や真狩村など羊蹄山麓の町村から訪れる顧客に対応しました。街中には宿泊できる場所がなく、ニセコ山中にある温泉やホテルに泊まっていました。当時はまだ外国人客の訪問も今よりは少なく、スキーのみならずニセコの四季を楽しむことが出来ました。

大都市と違い、お互いの顔が見える地方では、弁護士事務所を訪問することは心理的にも抵抗が有ると思いますが、身近な場所で相談できる安心感も実感でき、地方における法律事務所の大切さがよく理解できました。

今では北海道での生活の方が長くなり、両親も「北海道の湘南」といわれる伊達市に移住し、道民として楽しく生活しております。

2021年、札幌市中央区に、根は

泥沼にあっても清らかな花を咲かせるようにとの思いから、蓮花法律事務所を開設しました。

現在は、札幌弁護士会刑事弁護センター運営委員会の委員長を務めております。なぜ悪いことをした人を弁護するのか?という問いに対しては、いろいろな場面でいろいろな方が答えていらつしゃるので、ここでは少し違った視点で、あまり知られていないことをお話ししたいと思います。

刑事弁護人は、刑事裁判で弁護をすることが主な仕事ですが、逮捕・勾留されている被疑者・被告人(報道では容疑者・被告といわれますが、こちらが正式な呼び方です)からは、家族との連絡や留置場への差入れ等いろいろなことを頼まれます。といって、差入れできる物は限られていて、外で買ってきた物を自由に差入れることはできません。食品は警察署や刑務所の売店で買える物のみ(お弁当を注文することはできます)、衣料品も1回に差入れできる数が決まっています。自傷行為に使われる可能性があったり、何かを隠せるような形状の衣類は入れることができません。スウェットのウエスト部分に通

してあるひもは抜いた上で、その穴は縫って塞がなければならないのです。他方、本や雑誌などは、種類を問わず比較的自由に差入れることができ、ビックリするような題名の本や雑誌が差入れられているのを見たこともあります。

逮捕・勾留されているので、ある程度の制限はやむを得ないと思う一方で、どう考えても合理的な理由などなさそうな制限が課されていることもあります。日本は、諸外国に比べると、捕まった人に対する人権の制限はかなり厳しいと感じています。

弁護士の仕事は、法律に触れなければいくらかでも拡げることが出来ます。これからも、足下はもがきながら、水面上は清らかな花を咲かせているように見えるよう、頑張ってくださいと思います。



海外だより

タイで見た

「ローカライズ」の玄奥

2020年卒業(第71期)

鈴木 花波



第38号の新社会人紹介に寄稿し、知的財産法ゼミや新渡戸カレッジでの活動等、就職活動や社会人生活で活きた在学中の経験を記させていただきました。現在、東京の総合商社に入社して五年が経過し、語学と実務を学ぶ修業生としてタイに赴任しております。

修業生とは、創業当初から百三十年以上続く伝統ある制度で、二年間、現地の言語、文化を学ぶことでその国に通暁したスペシャリストを目指す制度です。派遣国を指定して応募する制度ですが、この度タイへの赴任を希望し応募いたしました。その動機として、前回寄稿時にも言及した、新渡戸カレッジの国際インターンシップでの原体験があります。大学三年時にタイ大塚製薬にて研修の機会をいた

だき、タイでの製薬ビジネスに加え、文化の豊かさや人の温かさに触れ、いつかタイで働きたいという漠然とした夢を持つようになりました。その際は、勿論タイ語は話せず英語のみでの交流でしたが、「ローカライズ」し切れない自分自身に歯痒さを感じる場面が多々ありました。また、タイ語を操り、現地に根差した形で現場に入り込む邦人社長の姿を目の当たりにし、自身も異文化を超えて社会貢献をしたいという思いを強くしました。

総合商社への入社後は、食料本部の穀物物流部門で、コーンや小麦等の飼料原料の輸入を担当しました。が、ご縁がありこの度海外派遣のチャンスをおいただきました。

修業生として、一年目はチェンマイ大学でタイ語の語学研修、二年目は現地法人のモビリ



テイ事業部で実務研修を行いました。タイ北部に位置するチェンマイは、涼しい気候や自然に囲まれた落ち着いた雰囲気。タイ北部に通ずる点も多く、四年ぶりに大学の門をくぐりながら北大での日々の懐郷の念を馳せるも束の間、独特なタイ文字と複雑な発音に翻弄されながら終日講義を受け、膨大な宿題を熟し奮闘する毎日でした。そのうち、少しずつ街に流れる音を聞き取れるようになり、看板が読めるようになり、自身の成長につれて六年前に臆げだったタイの情景が徐々に鮮やかに彩られていき、日々の学習のモチベーションとなりました。インターンシップ時にお世話になったタイ人の社員の方々と六年ぶりに再会し、タイ語でやり昵懇に言葉を交わした瞬間は感慨深く

喜びも一人でした。

二年目の実務研修では、現地法人で商用車の新規事業開拓に従事しました。タイ商用車ビジネスは昨今の国内景気減退に伴い市況が低迷しており、時代の転換期を乗り越える新たな戦略策定が求められています。自身にとって新しい事業領域である上、業界としても厳しい時期が続く苦悩と試行錯誤の連続でした。殆どの駐在員が英語での会話や通訳を介してコミュニケーションを行う中、自身の強みであるタイ語と現地に根差したタイ文化への理解を活かすべく、先ずは関係構





築に注力しました。特に郊外のトラックディーラーに向向した際は、さらに高い言語の壁が立ちあがった中、厳しい市場環境での悩みを抱えた地域の顧客に対してタイ語を通じてより深いコミュニケーションを行うことが出来、言語を強みとすることで未経験のことも一つひとつ乗り越えることが出来ました。社内では、日本人とタイ人が協働するにあたり効果的なカスケードダウンが課題の一つですが、タイ人が大事にしている価値観を踏まえタイ語で丁寧に伝えることで、タイ



語が話せない邦人幹部との架け橋として組織に寄与できたと自負しています。入社当初は周囲を見渡せば幅広い分野の巧者の揃い踏みで、目指すキャリアへの方向感もなくあれもこれもと全て追いかけたくなる時期もありましたが、自身の原点に立ち返り、地域専門性を軸に事業に携わることで新しいキャリアへの活路が見えた二年間でした。そのきっかけをくれた北大での貴重な経験に改めて感謝するとともに、現地での実務経験を通して見えてきた課題も多くあり、タイ事業に携わるといふ個人的な目標を達成した喜びを感じつつも、キャリア半ば飽くまでもこれはスタートラインに過ぎないと身をもって実感しています。

一般的に「ローカライズ」とは現地の言

語・文化・社会背景を理解し、製品やサービスを現地ユーザーに最適化するプロセスを指します。この二年間で現地への理解はかなり深まりましたが、会社の事業戦略や自身の思い描くビジョンを現地に落とし込み最適な形で現地との相乗効果を生み出すという点では、自らの力不足を痛感する場面も多く、真の「ローカライズ」への道のりは果てしなく際限のない挑戦であると感じています。一方で、新しい挑戦においても誠意をもって地道に取り組めば、少しずつ仲間が増え徐々に理想が形になるという手触り感を得られたことは自信に繋がっており、今後挑戦したいことや将来のビジョンの解像度が上がった

大きな転換点にもなりました。今後は、事業の専門的知見を深めながら社会課題と向き合い、現地により「ローカライズ」したビジネスパーソンを目指して、日泰、ひいては世界の発展に貢献する事業を切り拓くべく努めて参ります。

黒川法律事務所

弁護士 黒川 貢

(平成13年卒52期)

〒060-0801 札幌市中央区大通西三十三丁目四

電話 (011) 299-1130

FAX (011) 299-1130

全国同窓会2,000校の実績
同窓会アドバイザー
プライバシーマーク認定企業

SALAT

株式会社 サラト



■本社 〒670-0948
兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 079-284-1380

■東京支社 〒110-0016
東京都台東区台東4-18-7
シモジビル5F
TEL 03-3832-6381

<https://salat.co.jp>

追悼



「イマイ」から

「シン・イマイ」へ

今井弘道先生は、1979年8月に着任し2008年3月に退職されるまで、足かけ30年近くにわたり多くの学生を育てられました。わたしは1995年に学部別募集で最初に入った法学部生で、先生の指導を受けて大学院へ進み、2006年には助手として採用され研究者のスタートラインに立ちました。門下生のなかでは若輩ですが、近隣の北海学園大学で職に就く幸運に恵まれ、北大退職と前後して中国で教鞭をとるようになった先生の「書庫番」や、一時帰国の際に遠方へ出張される折には「カバン持ち」を務めたりしました。

北大退職後の今井先生は、浙江大学をはじめ中国の大学で研究と教育に情熱を注がれました。2019年には高齢ということもあり、惜しまれつつ帰国されましたが、同年に再び集中講義で中国へ向かう際に体調を崩し、以後は療養生活に

入られました。その後も闘病を続けておられたさなか、2023年10月15日、突然お亡くなりになりました。日中両国の関係が難しくなっていく時期に、10年以上も中国で研究し、みずから中国で教えた学生が北大へ留学するプロジェクトを推進したのは、やはり先生が上海生まれであったからだと思います。

今井先生をご存知の方でも、いつ頃の先生と出会ったかによって、その「今井像」はだいぶ違うかもしれません。わたしは法哲学の講義とゼミを受けた1990年代後半、まだまだ先生は「よく学びよく飲む」「若手」の研究者でした。おそらく年長の先輩方と同様に、面倒見の良いアニキ、豪放磊落な「今井像」をわたしも共有しています。ただ、2000年代に入ってから先生は大病を患い、それより後は、禁酒節制に励まれ「よく学びよく学ぶ」「先生へと、その「今井像」は少し「まるく」になりました。おそらく、わたしも含めた後輩の皆さんに馴染みある「今井像」はこちらだと思っています——本当か？

「まるく」になったのは、ひとえに医師の「お告げ」によります。「酒か勉強か、どちらかを止めないと死にますよ」と。そこで先生は決断しました。「もう酒は一生分を飲んだからいいんだわ」「でも勉強を止めるわけにはいかないんだわ」と。よく学びよく遊ぶ「イマイ」から、よく学びよく学ぶ、ひたすら学ぶ「シン・イマイ」の誕生

です。浙江大学構内の宿舎に住み学生と交わした議論（火鍋）、一時帰国して通った琉球大学の集中講義（ビーチパーティー）は、いずれも北大での講義やゼミ（シンパ）と同じく、先生にとっては勉学の一環だったと思います——なんか怪しい。

もともと、どの世代にも共通する「今井像」、それはあの背の高いスマートな後ろ姿、大きな声で巧みに話す教壇の姿ではないでしょうか。先生の「演説」を聞いたことがある方ならば、ときに肩をすくめ身振り手振りを使いつつ、厳しい表情をされたと思いきや屈託のない笑顔で身近な例を出しては聴衆の意表を突く先生の姿と声が、今でも鮮やかに蘇ってくるに違いありません。軍艦講堂やW棟の教室でマイクを使わず地声で通し、まるで工事でもしているかのような筆圧で打ち付けられてはボキボキ折れていくチョーク、こうした光景は授業を受けた全ての学生に共通する「今井像」だと思います——ほんそれ！

今井先生は、常々「良い観客（受講生）がいて、良いお笑い（講義）は作られる」と受講生に公言していました。このため、授業を受ける学生は気を抜けないのです（なぜか）聴き手を魅了する議論が次から次へと繰り出される姿は、やはりこれも全ての世代に共通する「今井像」だと思います。もちろんゼミや大学院など近い距離で指導を受けた場合と、主に法哲

学の講義を通じて先生の聲に接していた場合とでは、おのずとその印象も違ったものになるかもしれません。が、あらゆる点で「規格外」「突き抜けた」印象を抱かせる先生の存在感は変わらないと思います——本当に「まるく」になったのか？

「教科書のような法哲学をやっている面白いか、そんなの面白くないだろう」「これはわたしが院生の頃から繰り返す今井先生から頂戴した言葉です——ちっとも「まるく」なんかになってない！

結局、「シン・イマイ」とは「まるく」になったという話ではないようですが、では、面白い法哲学とは何でしょうか。その手がかりは先生の「仕事」にあります。参考になるのは長谷川晃先生による「今井弘道教授の経歴と業績」で、それは「北大法学論集」58巻6号（2008年3月刊行）に掲載されており、Web上から読むこともできます。また、僭越ながら中国をはじめとする東アジアの法哲学発展に尽力された先生の功績につきましては、日本法哲学会75周年誌に所収の拙稿「聞き書き：東アジア法哲学会の来し方・行く末」（日本法哲学会HPの「学会紹介」から閲覧可能）をご覧くださいと思います。

学生と学問をこよなく愛された今井先生、どうか安らかに眠りください。

菅原寧格

2000（平成12）年卒業（第51期）

北海学園大学法学部教授

団体などの活動

ムートゼミの活躍

北海道大学法学部同窓会賞

第4回北海道大学法学部同窓会賞の団体賞を受賞したムートゼミは、曾野裕夫教授(38期)を指導教官に研鑽を重ねております。

模擬仲裁日本大会

模擬仲裁日本大会のウェブサイトにありますと、この大会は国際商取引学会が主催し、学生・院生による、仮想事例を用いて国際ビジネス紛争を解決する仲裁の実践的なトレーニングを目的としております。

参加チームは、国際物品売買契約の当事者間で発生し、(模擬)仲裁が申し立てられた架空の紛争に関して、契約と仲裁手続について、当事者の代理人弁護の立場から主張書面を作成し、口頭弁論に臨みます。

各チームに与えられる4対戦(英語、日本語各2対戦)に弁論者2〜8名を基本として、2008年から行われています。

出題

ウィーンと香港で開催される国際商事

模擬仲裁大会のプレ大会として、問題は本大会と同一のものを使用します。

出題の例を見ますと、「他国の菓子製造者の製品が納入された後に、持続可能な方法で生産された原材料が使用されたことが判明した場合の、契約解除や代金支払いをめぐる紛争」という、環境問題やサプライチェーン問題、ワクチンやドラッグの売買、マルウェア感染と情報流失など、最新の論点や企業が直面している問題が取り上げられています。

北大の参加

北大は2010年の第3回から出場し、2019年からは7年連続出場し、英語の部では2021年に優勝、

2022年に準優勝、2024年に3位、日本語の部では2023年に3位と活躍しております。

最優秀弁論者には、2011年に待田裕人君(64期)と2022年に熊沢朋宏君(73期)の二名が選ばれております。

第18回日本大会

2025年3月22日には京都市で第18回模擬仲裁日本大会が海外3チームを加えた15チームで行われました。

英語の部ではサンパウロ・カトリック大学が、日本語の部ではシンガポール国立大学が優勝しております。

北大は入賞を逃し、参加した安倍岳宏君(76期)も盛んに悔しがっていました



2025.3.30-4.6 香港の大会

が、他チームが留学生をメインとするなかでの健闘は称賛に値するでしょう。

更なる研鑽 活躍

北大は香港での本大会にも2010年以來出場しており、日本大会での経験を活かして海外の大学と対戦しております。

学生の時点で、このような大会に参加できる意義は大きく、入賞の有無に拘らず、継続した参加を目指しての研鑽と活躍が期待されます。



いろいろ
やってます。

私たち須田製版は常に変化し続けるニーズに対応する
確かな技術と提案でみなさまの想いを「つなぐ」お手伝いをいたします。

TOTAL PRINTING

株式会社 須田製版

札幌本社 札幌市西区二十四軒2条6丁目1番8号
TEL 011-621-1000 FAX 011-621-1500
旭川支社 創路支店 苫小牧支店 東京支店 滝川営業所 北見営業所
<https://www.suda.co.jp>

オンラインショップ

ECサイト

NORTH PAPER

Instagram

[グループ会社]

有限会社 シグナル

札幌中央印刷

◆◆同窓会からのお知らせ◆◆

●2025年度法学部同窓会定時総会及び同窓会会員懇親会並びに同窓会主催シンポジウムを、「ホームカミングデー2024」開催当日となる9月27日(土)、左欄上段のとおりで開催することに致しましたので、多数の会員の皆様の出席、参加をお待ちしております。

親会とセットで参加されますよう、併せてお願いを申し上げます。

また、同日の同窓会主催シンポジウムは、同窓会会員懇親会に先立ち開催致しますので、多数の会員の皆様が総会・懇

親会とセットで参加されますよう、併せてお願いを申し上げます。

●毎年ホームカミングデー当日に開催する文系4学部・同4学部同窓会共催の公開フォーラム又は講演会は、文学部及び文学部同窓会が運営当番となり、左欄下段のとおり開催することに致しましたので、多数の会員の皆様の参加をお願い申し上げます。

2025年度同窓会定時総会及び同窓会会員懇親会等開催のお知らせ

1.日時 2025年9月27日(土)

17:10～17:40 法学部同窓会定時総会
17:40～18:30 法学部同窓会主催シンポジウム
18:30～20:00 法学部同窓会会員懇親会

2.場所

上記、いずれも北海道大学インフォメーションセンター「エールの森」内「カフェdeごはん」(北大正門入ってすぐ左)
懇親会費 4,000円(ただし、在学生会員は、無料)

3.連絡先

同窓会定時総会・講演会・懇親会にご出席を希望される方は準備の都合がございますので、9月12日(金)必着で同窓会事務局にEメールなどでご連絡を下さいますよう、お願い申し上げます。

※懇親会を急きょキャンセル等された場合には懇親会費相当額をご負担頂きますことを、予め申し添えさせていただきます。

北大法学部同窓会事務局

〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目北大法学部内

FAX (011) 706-3941

Eメール dosokai@juris.hokudai.ac.jp

——同窓会主催シンポジウム——

テ — マ:「法学部生と語る同窓会活動」

パネラー:法学部学生団体の代表など

コーディネーター:法学部同窓会事務局長猪飼秀一

「ホームカミングデー2025」講演会のお知らせ

開催日:2025年9月27日(土)14:00～16:00

実施主体:文系4学部・同4学部同窓会合同企画

実施場所:北大人文・社会科学総合教育研究棟W103

テ — マ:アンパンで描かれた死と生
～やなせたかしの生涯～

話し手:梯 久美子氏(ノンフィクション作家)

紹介:熊本市に生まれ、5歳から札幌市に住む。北大文学部卒業後、サンリオの編集者を経てノンフィクション作家に。2006年『散るぞ悲しき一疏黄島総指揮官・栗林忠道』で大宅壮一ノンフィクション賞を、2017年『狂うひとー『死の棘』の妻・島尾ミホ』で読売文学賞などを受賞。『やなせたかしの生涯アンパンマンとぼく』など著作多数。札幌市在住。

その他:講演会の詳細、参加方法などについては、北大ホームページ(同窓会ホームページではないことにご留意下さい。)をご覧下さい。参加申込先は下記のとおりです。

北海道大学法学研究科・法学部 庶務係

TEL 011-706-3118 FAX 011-706-4948

E-mail shomu@juris.hokudai.ac.jp

北海道大学法学部同窓会

FAX 011-706-3941

E-mail dosokai@juris.hokudai.ac.jp

●同窓会会員の氏名・住所(自宅・勤務先)・電話番号(自宅・勤務先)・勤務先等の変更届出について

これらの事項について、変更が生じた場合(特に、会報の勤務先送付中止に伴う自宅住所等の変更)には出来るだけ速やかにEメール又はお葉書にて届出をされるようお願い致します(ただし、在学生同窓会員の皆様の住所については、卒業時まで、保証人様の住所をもつて在学生会員の皆様の住所として取り扱わせて頂きますこと、また、卒業後に新住所の届出がない場合も、同様の取扱いとさせていただきますことをご了承願います。)

●会報「楡苑」への掲載原稿を募集します。

同窓会会報にふさわしいものであれば、内容は問いません。資料・写真などの情報提供なども対応いたしますので、事務局にお問い合わせ下さい。

●会報に掲載する企業・各種団体の広告及び名刺広告を募集します。

毎年の会報は同窓会費及び広告掲載料により発行・配布しております。広告掲載を通じた会員の皆様の特段のご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。詳しくは事務局にお問い合わせ下さい。

TEL・FAX、Eメールアドレスは最終頁に記載しております。

「事務局報告」第4回「北海道大学法学部同窓会賞授賞式」の開催

第4回「北海道大学法学部同窓会賞授賞式」は2025年3月25日（火）13時30分より北大法学部棟2階小会議室において挙行されました。

藤田美津夫同窓会長から「同窓会賞は、在学生支援の一環として、学業又は課外活動で顕著な成績、実績などを収めた在学生、在学生サークル等団体を表彰するもので、2021年度から行われ、本年度4回目となります。

受賞者の選考は、法学研究科長・法学部長に依頼し、法学部内の審議・調整等を経た選考結果を踏まえて決定しております。

今年は、個人の部では、同日午前に学位授式を終えた、小川奈々さんと南茄奈さん。団体の部では、国内外の模擬国際商事仲裁大会で活躍している『北海道大学法学部ムートゼミ』が選定されました。

受賞された皆様、まことにめでとうございます。皆様の更なるご活躍、ご健勝を祈念しての挨拶といたします。」と祝辞並びに表彰者の紹介を兼ねた挨拶がありました。

引き続き同窓会長より受賞者に表彰状と副賞が授与され、ご多忙の中ご臨席いただいた佐々木雅寿法学研究科長・法学部長から、受賞者への餞と激励のご祝辞

を頂きました。

個人賞を受賞した小川奈々さんと南茄奈さんは、いずれも地元の地方公務員に、団体賞受賞のゼミ参加者の土屋ひかるさんは民間へ、同じく阿部岳宏さんはLSへと、北大法学部を卒業し、同窓会賞受賞を誇りとして、それぞれの進路に進む期待と抱負が述べられました。

ムートゼミの博士課程・黄少聡さんや曾野裕夫教授も参加いただき、最後に記念の写真を撮影しました。

若き才媛と俊英の姿から、準備をした事務局も感動とエネルギーを頂けた授賞式でした。

※「ムートゼミ」の活躍は29頁に記載しております。

藤田 荒木・村本法律事務所

弁護士 村本 耕大

（平成19年学部卒、平成21年北大LS卒）

〒060-0821 札幌市中央区南二条西十丁目一番地四
電話（011）271-1604
FAX（011）271-1607



表紙の写真



明治が終わろうとする年、百年の時を超え歌い継がれる寮歌が生まれた。

近郊の都市化が進み山頂にはアンテナ塔が並んでいるが、手稲山の黄昏は、今でも見る者の心を引きつけるようだ。

父親が東北帝国大学農科大学（現・北大農学部）に学んだ船山馨は、小説『石狩平野』にヒロインの鶴代が手稲山を眺める情景を描いている。

北大に学ぶ学生や学んだ者たちの行く末を、手稲山は今でも見守っているようだ。

*写真はポプラ並木入口近くから4月28日黄昏時に撮影。

写真・文：猪飼秀一（28期）

法学部章新旧デザイン



旧デザイン



新デザイン

東京基準より北海道基準、北の夢。

☆ ぷらう

代表取締役社長 石川 裕一

株式会社 ぷらう

〒060-0063

北海道札幌市中央区南三条西4丁目12-1 アルシュビル8階

TEL : 011-219-2223 FAX : 011-219-2885

法学部へのご寄附のお願い

日頃より北海道大学法学部の教育・研究等へのご理解、ご協力、ご支援に心から感謝申し上げます。

この度、法学部同窓会事務局のご高配により、同窓会報「楡苑」第41号の発行に合わせて、法学部へのご寄附のお願いをさせていただきます。

まず、近年の法学部の財政状況が危機的状況にあることのご説明をさせていただきます。

北海道大学が国立大学法人となり、法科大学院が開校した2004年度に大学本部から法学部へ配分された当初配分額は、約1億4400万円でしたが、2024年度と今年度の当初配分額は約8500万円となり、20年間で約40%削減されています。その間、教育と研究の質・量ともに維持・向上させるため法学部ではあらゆる努力をしてきました。しかし、ここ数年、財政状況が極めて悪化したため、大学本部からの財政援助を受けつつ、可能な限り支出削減に取り組んでまいりました。具体的には、教員が学会等に

出席するために必要な旅費や研究費を当面廃止し、事務室では必要な人員を削減し、法学部生や大学院生の教育・研究に必要な図書、物品等の購入も抑制しております。その結果、これまでは、決算で大幅な赤字を出すことを避けることができました。しかしこれでは、通常の教育と研究を行うことが極めて困難な状況となっております。

また、法科大学院の予算配分に直結する「法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」は、毎年の司法試験合格率について高い実績をあげている首都圏や関西圏の有力法科大学院に有利な内容となっており、地方の大学にある多くの法科大学院では予算が大幅に削減されることになりました。その結果、今年度の北大法科大学院の予算も約1800万円削減されることになりました。これは、上記の今年度の当初配分額の約8500万円から、約1800万円（当初配分額の約21%）がさらに削減されることを意味します。このため、今年度は、予算を作成す

る段階から、少なくとも、1800万円程度の赤字が見込まれています。このような厳しい財政状況は、少なくとも今後数年間は、継続することが予測されています。

もちろん法学部でも、支出の削減のみならず、大学本部からの財政援助に加え、収入の増加のための諸方策について、大学の関係理事と複数回協議し、具体的な検討を行っております。しかし、今年度の北大全体の財政状況も必ずしも良好とはいええず、大学本部から更なる財政援助を受ける可能性も高いとはいえません。また、ネーミングライツ等、いくつかの増収策も検討しておりますが、今年度の財政状況を改善することのできる即効性のある方法は未だ見つかっておりません。

様々な検討の結果、持続可能な方法で、法学部の収入を増加させる方法の一つが、同窓会のみならずまからのご寄附であるとの考えに至りました。そして、ご寄附のお願いは、今年度1回限りのものではなく、もしご理解を賜れば、今後も継続してお願ひできればと考えております。

法学部では、ご寄附を法学部生と大学院生の教育・研究に不可欠の予算の一部に使わせていただくために、毎年、予算を重点化するテーマや分野を決めて、ご寄附を活用させていただくことを考えています。例えば、これまで十分な予算措置ができなかった図書や、教育上不可欠と考

えられるその他の必需品等の購入等は最初に対応すべき事柄であると思われる。また、今年3月には、国内外の模擬国際商事仲裁大会に毎年参加し、国内大会では優勝を含む入賞を続けているムートゼミに対し法学部同窓会賞を付与していただきましたが、このように国内外で活躍する学生の活動に対する支援もご寄附を使用させていただく一例と考えております。さらに、学生の多様性を高めるため、優秀な女性の法科大学院生や法学部生に対して、奨学金、あるいは、入学料や授業料の減免といった制度等を設けることも今後検討してまいります。

みなさまのご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

末筆ではございますが、みなさまの益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

2025年7月

北海道大学法学部長 佐々木雅寿

※ご寄附による財政援助にご協力いただける場合は、北大のホームページ内にある、北大フロンティア基金ウェブサイト (<https://www.hokudai.ac.jp/fund/>) の「寄附をする」ページの、「寄附目的」を「学部等支援」とし、支援先を「法学部」と選択して、手続きを進めていただければ幸いです。

誌上「北大祭」

第67回北大祭

2025年は、6月6日(金)～8日(日)の3日間、「彩雲」をテーマに開催されました。

正門には北大祭の看板が立てられ、正門から入った右手には実行委員会の案内



案内所



正門看板



講演会看板



スタンプラリー看板

所があり、古河講堂の南西側の楡の木には、講演会やスタンプラリーなどの看板が掲げられました。

文系祭2025

文科系4学部文系祭は人文科学総合研究棟の教室などで、講演や展示が行われました。



文系祭パンフ



横濱准教授講演チラシ

法学部からは、大学院法学研究科の横濱和弥教授が「国際刑事裁判所(ICC)の「再生」?」の「再生」?」の講演などが行われました。

模擬店

メインストリートには、模擬店がズラリと並び、音楽サークルの演奏が響き、北大生はもとより、高校生や一般の方が訪れ、人並みが途切れることがありませんでした。

6日の午後1時半過ぎには、早くも「売り切れ」が叫ばれるほどの人気を集めておりました。

模擬店には、法学部法律相談室の焼きそばや、薬学部の薬膳カレーなど飲食物の提供がメインでしたが、熊の毛皮に触ったり、疑似乳しほりが出来る体験型展示店も人気を集め、スタッフには外国人留学生も参加しておりました。



法律相談室模擬店



演奏



熊の毛皮



乳しほり体験



清掃スタッフ

外国人留学生の模擬店

留学生による自国の料理を実演して振る舞う模擬店は、テレビの道内ニュース番組でも放送され、パキスタンやバンラデッシュ、ウズベキスタン、インドネシアなどの各店には行列ができる人気を集めておりました。

バンラデッシュの肉と野菜のロティや、アフリカのクスクス、パキスタンの唐辛子味が効いたドライカレー、中国の粽を購入して味わいました。



バングラデッシュ店



パキスタン店



ウズベキスタン店



インドネシア店



行列の様子

202室から

はじめに

高橋了先輩

(23期)から今年1月に事務局長役を引継ぎました。

202室の同窓会事務室での日々の業務におけるエピソードなどを随想的に記載します。



楡苑の座談会

本号に掲載しております宮脇淳先生を囲む座談会には、事務局として写真撮影



座談会書籍

を担当しました。

当日、山崎幹根(41期)教授が司会進行を務められましたが、宮脇先生の『財政投融资の改革』などの御著作が並ぶ設営にもご協力を頂き、座を盛り上げて頂きましたので、紹介いたします。

北大祭での講演

報道で、国際刑事裁判所(ICC)が、プーチン大統領らを、ロシア・ウクライナ戦争における戦争犯罪で逮捕状を発送したことを目にしておりましたが、北大祭の法学部の企画として、講演がありました。

札幌では、政治や経済、歴史など各種講演会が開催され、二千人程度の受講料を払い、機会ごとに参加しております。



横濱准教授講演

この度は、無料で横濱准教授の研究に関する講演を伺える有意義な機会に恵まれ、感謝いたしております。

佐賀県支部から

北大佐賀県支部の大宅公一郎支部長からは、地元新聞などへの投稿掲載の様子を連絡いただきました。

投稿の中に、旧制佐賀高等学校寮歌「南に遠く」の一節「三年飛ばず、また鳴かず」についての記載がありました。

どちらかといえば「鳴かず飛ばず」といった期待外れのマイナスに解される出典ともなっています。

しかしながら、「十八史略」では、三年間酒色に耽つて政治を顧みない楚の莊王を臣下が諫めると、「飛ばば天まで上がり、鳴けば必ず人を驚かすだろう」と答えた故事から、「実力のあるものが発揮する機会をじっと待っている」ことの例え、いわば雄飛の前の雌伏ともいえる心意気を意味しております。

大宅支部長は寮歌を佐賀大学生などに



佐賀新聞投書

率先して教えており、歌唱指導の様子をみたいものだと思いました。

苗字の話題①

自分の苗字「猪飼」いかい」は、「いのかい」の読みを含めて、愛知県熱田(現在の名古屋市区)や岐阜、滋賀に例がみられるそうです。

学内の事務担当の方とのメールの遣り取りで、「猪飼様」とあり、思わず五木ひろしの『長良川艶歌』にある「枕淋しや 猪飼の宿は」が浮かんできました。そこで、「猪飼なら風情がある苗字なのでしょうが、猪なんですね」と返しましたら、「失礼しました。猪を飼うは力強い苗字です!」との返信を頂きました。

苗字の話題②

道内で「猪飼」の苗字は少ないようです。

女性会員から住所変更や会費納入のメールを頂いた折、「札幌の高校を卒業しましたが、同級生に猪飼さんがいらっしやいました。」とのこと。娘に問い合わせますと「なつかしい!高校の時は、大量に漫画をよく借りて授業中よんでたわ」とのことでした。「やはり、お嬢様でしたか。こんな偶然があるのですね」と返信がありました。

この苗字では、変なことは出来ないとの思いを強くしました。

2024年度収支決算報告書

自 2024年7月 1日
至 2025年6月30日

(収入の部)				(単位 円)	(支出の部)				(単位 円)
項 目	金 額			備 考	項 目	金 額			備 考
	予 算	決 算	増 減			予 算	決 算	増 減	
会費収入	2,800,000	2,947,988	147,988	旧終身会費 50,000×16名 旧終身会費分納 10,000×5名 旧終身会費分納 15,000×1名 旧年会費 3,000×185名 新会費 20,000×76名 その他 2,988×1名、 5,000×1名等	事 務 費	70,000	67,564	-2,436	封筒・コピー用紙・糊・ インクカートリッジ等
広告収入	300,000	260,000	-40,000	会報第40号広告掲載料	会 議 費	230,000	202,680	-27,320	総会、役員会、同窓 会員懇親会経費等
雑 収 入	100,000	91,703	-8,297	同窓会員懇親会会費、 銀行預金利息等	印 刷 費	550,000	550,000	0	会報「楡苑」第40号 印刷製本費
合 計	3,200,000	3,299,691	99,691		交通通信費	1,050,000	1,049,970	-30	会報送料、同窓会発 文書郵送料等
					助 成 金	200,000	199,930	-70	同窓会賞、ゴルフ大 会、北大祭等
					謝 金	140,000	139,730	-270	テーブル起こし、郵送 事務補助作業謝礼等
					人 件 費	900,000	900,000	0	事務局給与(交通費)
					雑 費	60,000	52,004	-7,966	郵便振替手数料、 銀行振込手数料
					合 計	3,200,000	3,161,878	-38,122	

単年度収支差 収入3,299,691円－支出3,161,878円＝137,813円
次年度繰越金 前年度繰越金 ￥16,158,724
今年度収支差 ￥137,813
繰越金内訳 ￥16,296,537
預貯金 ￥16,295,346
現 金 ￥1,191

同窓会費納入のお願い

毎年度、会員の皆様からの多大なるご理解とご協力により
まして、同窓会費を納入頂き誠に有難うございます。
この場をお借りし、厚く厚くお礼を申し上げます。
同窓会の運営基盤を強固にし、同窓会の役割りを積極的に
果たしていくためにも、皆様の会費が財源として是非必要で
ございます。

会員の皆様には一層のご理解を頂きまして今後とも会費納入に
特段のご協力を賜りますようお願いを申し上げます。

1. 会費

年会費 3,000円
終身会費 50,000円
(5回までの分納が可能です)

ただし、2017年9月30日の同窓会規約の一部改正によ
り、2017年3月以後の卒業生及び現法学部等在学生の皆
様は、新会費である一律20,000円の終身会費となります
ので、ご留意下さい。

旧会費適用者と新会費適用者との間には、実質的公平性が
確保されておりますことをご理解下さい。

2. 振込方法

○郵便局振込

同封の「振込票」をご使用下さい。振込手数料は同窓会負担です。
※ただし、2022年1月17日より、郵便局から現金で振込む
場合、ゆうちょ銀行の通帳やキャッシュカードで振込む場合
を除き、料金(110円)が必要となりましたことにご留意下
さい。

○銀行振込

北洋銀行本店営業部 普通1365501
北海道銀行札幌駅北口支店 普通0458323
ゆうちょ銀行 店番号908 普通570608
何れも「北海道大学法学部同窓会」名義です。

北大法学部同窓会報

楡苑第41号編集委員会

山崎 幹根(41期・編集委員長) 猪飼 秀一(28期)
石川 裕一(30期) 成田 祥介(34期)
大西 岳(53期)

編集後記

事務局長を引継ぎ、楡苑第41号の発行
に至ることが出来ました。

山崎幹根編集委員長及び各委員、原稿
作成や情報提供、広告掲載にご協力を頂
いた全ての皆様に感謝と御礼を申し上げ
ます。

2026年に創基150周年を迎え
る北海道大学や法学部との連携を一層進
めて参るため、関係する記事などの掲載
を行いました。

「北海道にある大学の法学部」として、
同窓生の近況や活動状況のみならず、司
法制度や地方自治、歴史事象などについて
法学部目線による記事掲載に努めました。
会報は同窓会員の心の糸を紡ぐもので
ありたいと思い、中島みゆきの『糸』にある
「織りなす布はいつか誰かを暖めうるかも
しれない」ものになり得ることを目指して
おります。

これからも同窓会員や関係する皆様か
らの原稿作成や資料提供、ご支援へのご理
解ご協力を頂き、編集に努めて参ります
のでよろしくお願い致します。

(法学部同窓会事務局長 猪飼秀一)

発行／北海道大学法学部同窓会
TEL・FAX／011-706-13941
メール／dosokai@juris.hokudai.ac.jp
印刷／(株)須田製版